

亀博自由研究のひろば

古写真の謎を解け!

く古写真から地域の歴史を調べよう



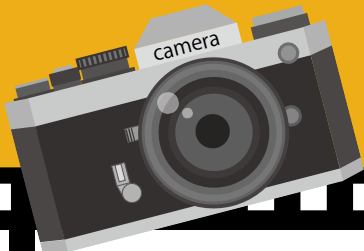
何をしているの?



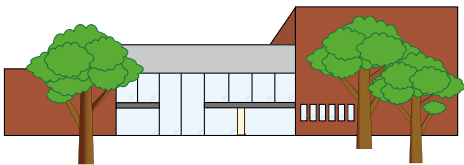
この池はどこにある?



この着物、いつ着たの?



亀山市歴史博物館



2023年



亀博自由研究のひろば

古写真の謎を解け！

く古写真から地域の歴史を調べようく



ごあいさつ

私たちが地域の歴史を調べる時、いろいろな人に話を聞いたり、昔使われていた道具を確認したり、昔の人が書いた物を読んだりします。他にも、古い写真も調べる手がかりになります。写真には、今ではみられなくなった儀式や風景、昔あった施設など、さまざまなものが写り、現在では伝わっていない古いことも、視覚的に確認することができます。

そこで、この展示では、主に明治時代から昭和時代に撮影された写真から、地域の歴史を調べます。展示している写真には、それが何を写したのかを当てるクイズがあります。また、そのクイズの答えに関連した別の写真や、古い道具などもあわせて展示し説明していますので、クイズを答え終わったら、ぜひ研究ノートにまとめてみてください。

最後になりましたが、亀博自由研究のひろば開催にあたり、ご協力いただきました皆様に厚くお礼申し上げます。

令和5年7月

亀山市歴史博物館

も く じ

ごあいさつ	2
もくじ・凡例	3
1. これは、どこでしょう？	4
2. ちがいをさがそう	23
3. これは、何を <small>なに</small> しているのでしょうか？	33
4. これは、なんでしょう？	41
出品目録	64
参考文献・謝辞	67

凡例

1. 本図録は、亀山市歴史博物館において令和5年7月15日（土）から9月3日（日）まで開催した亀博自由研究のひろば「古写真の謎を解け！～古写真から地域の歴史を調べよう～」における展示資料の写真と解説を収録するものである。
2. 資料解説は、展示会場と同様に口語調とし、小学3年生以上で習う漢字にふりがなをふった。また、本図録では、展示会場での解説を一部編集して掲載している。
3. 資料解説は、弊館学芸員の澤田ゆう子が担当した。
4. 本図録に掲載した写真の撮影は、弊館学芸員の澤田ゆう子と同じく館長の小林秀樹が担当した。
5. 本図録の編集は、弊館学芸員の澤田ゆう子が担当した。

1. これはどこでしょう？



《もんだい》



1-①

この写真は、大正13年（1924）9月8日に撮影されたよ。
この建物は、屋根の形から神社であることがわかるよ。では、この神社はどこでしょうか。

- A. 西丸町にある亀山神社
- B. 関町坂下にある片山神社
- C. 両尾町にある弥牟居神社

亀山市歴史博物館蔵

1-②

この写真の場所は、江戸時代に、観光名所だった場所だよ。さて、どこにあるでしょうか。

- A. 関町坂下にある岩屋観音
- B. 安坂山町にある石水溪
- C. 加太北在家にある加太不動滝



亀山市歴史博物館蔵



亀山市歴史博物館蔵

1-③

この写真は、明治時代の終わり頃に撮影されたものだよ。さて、この場所は現在のどこでしょう。

ヒントは、人物の後ろに写る急斜面をあげる石の階段だよ。

- A. 関町新所にある観音山
- B. 亀山城の近くの亀山公園
- C. 関町坂下にある鈴鹿峠

このページのこたえと解説は、6～11ページにあります。

1-④

この大きな池は、どこにあるでしょうか。ヒントは、右側に写る忠魂碑だよ。

- A. 市役所のそばにある池の側
- B. 田茂町にある田茂池
- C. 関ロツジ裏の新池



中林大典家蔵

1-⑤

この写真は、加太で「かんこ」という太鼓を胸につけて踊る行事を撮影したものだよ。

では、この踊りは加太のどこの地域で踊られているものでしょうか。ヒントは笠の形と着ている浴衣だよ。

- A. 加太向井の太鼓踊り
- B. 加太中在家の太鼓踊り
- C. 加太市場の太鼓踊り



亀山市歴史博物館蔵

1-⑥

この写真は、昭和13年（1938）以前、戦争に行く兵隊さんを見送った時に撮影された集合写真です。

さて、この写真が撮影された場所は、どこでしょうか。

- A. 亀山駅
- B. 兵隊さんの自宅
- C. 公民館



岡本家蔵（寄託）

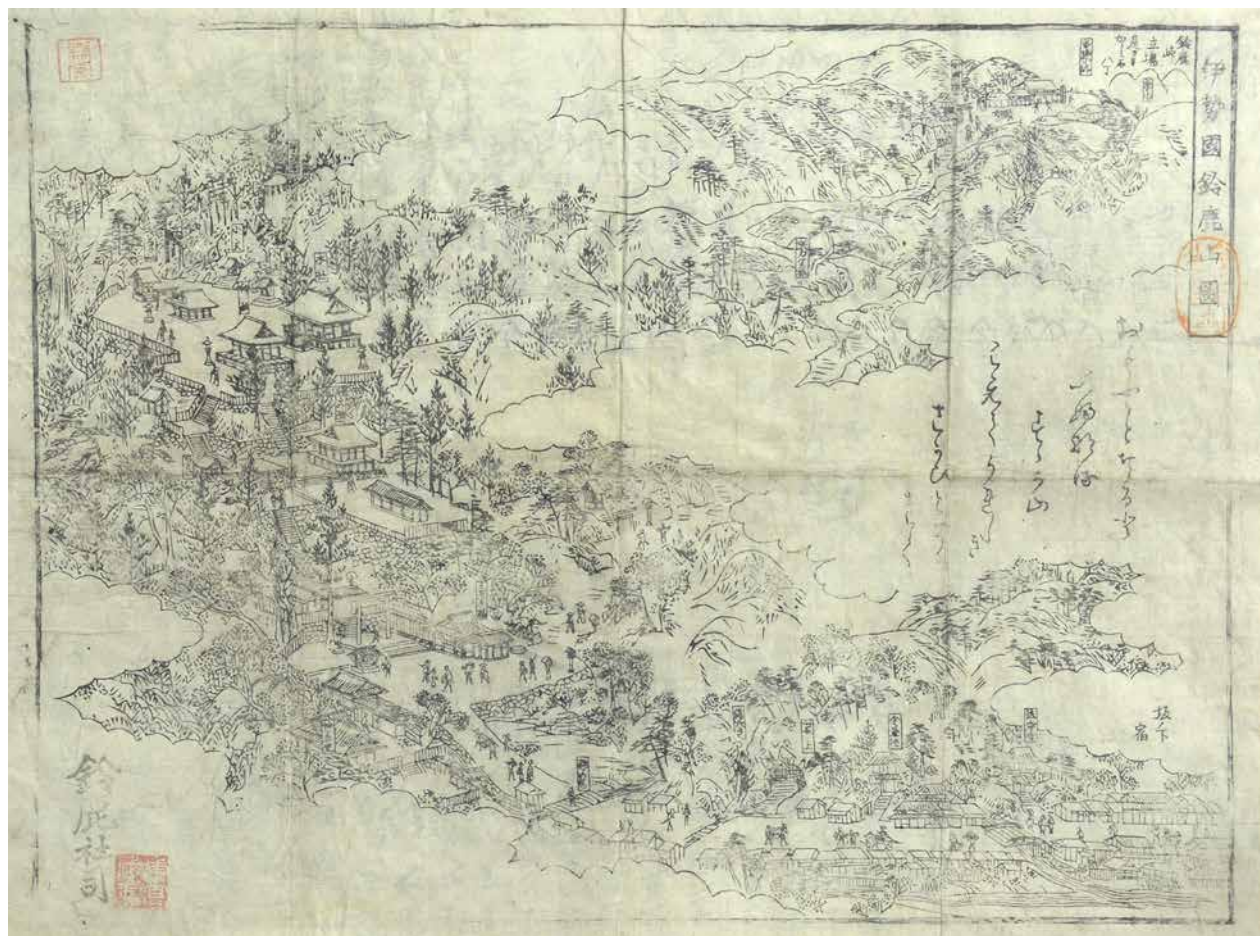
このページのこたえと解説は、12～22ページにあります。

《こたえ》

1-①

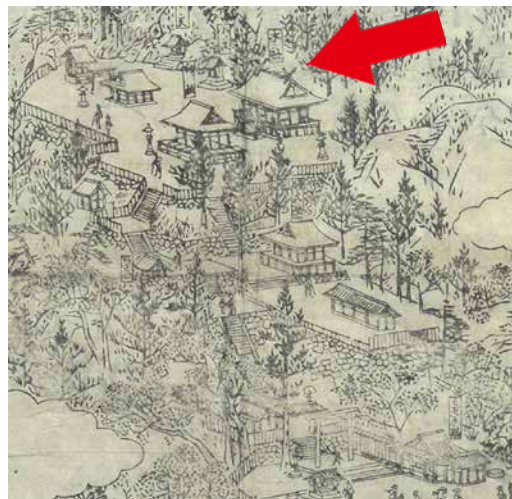
B. 関町坂下にある片山神社

写真の建物は、関町坂下にある片山神社の本殿だよ。そして、この建物は、今はなくなっ
てしまったよ。片山神社は、江戸時代に徳川家康が重要な道と定めた東海道のそばにあっ
て、多くのお参拝者が参拝におとずれていたよ。
では、どんな神社だったのか、江戸時代の絵図や印刷物からみてみよう。

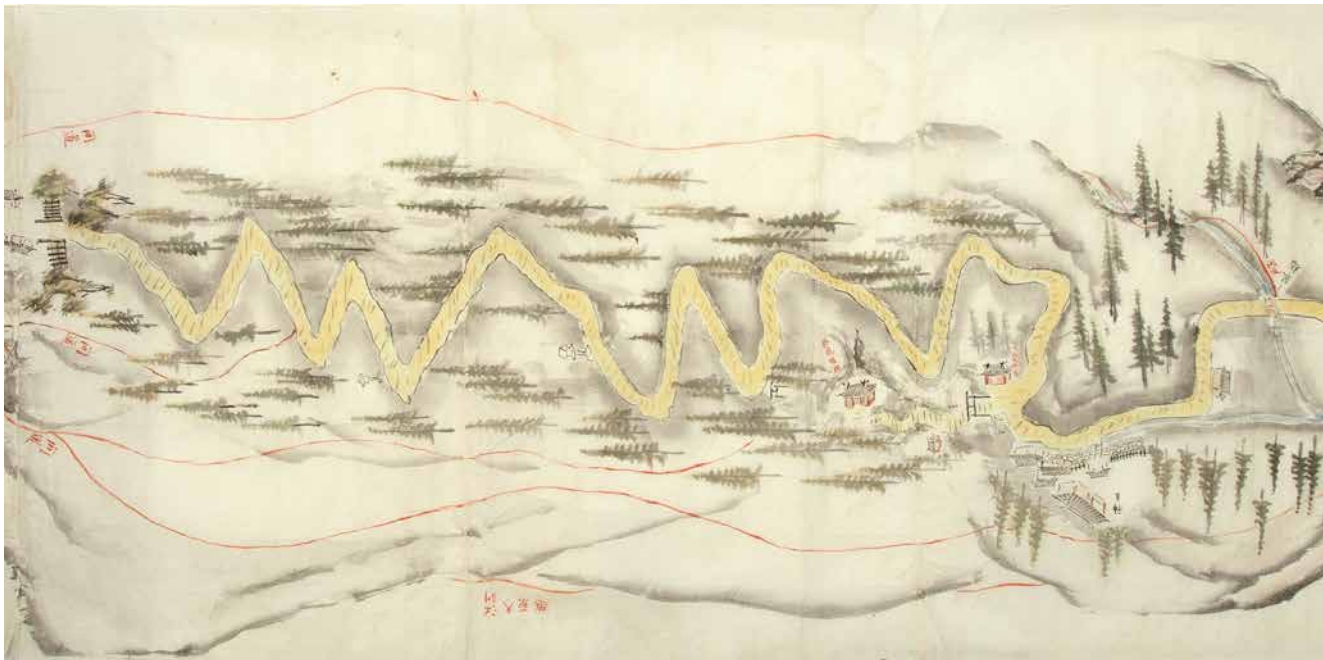


1-1 伊勢国鈴鹿山図
江戸時代／亀山市歴史博物館蔵今井家文書

この史料は、江戸時代の片山神社の境内を表した図
だよ。この図には、本殿は「本社」と書かれているね。
本社まで続いている急な石段は、今ものこっているよ。
昔は建物がたくさんあったんだね。



片山神社部分拡大



1-2 関宿西の追分から鈴鹿峠まで東海道絵図（鈴鹿峠部分）
江戸時代／亀山市歴史博物館蔵加藤家文書

この絵図は、江戸時代に描かれたんだよ。
この絵図に赤字で「鈴鹿権現」と書かれている神社が片山神社だよ。鈴鹿山にある片山神社は、昔は、鈴鹿神社とか鈴鹿権現社と呼ばれていたんだ。



鈴鹿権現部分拡大



1-3 絵葉書「鈴鹿峠」
大正時代か／亀山市歴史博物館蔵



絵葉書に使われたこの写真は、片山神社の鳥居の前で撮っているよ。本殿は、木に隠れて見えないけれど、本殿へと続く石の階段が写っているね。

これも絵葉書に使われた写真だよ。
 片山神社の前から鈴鹿峠を撮っているんだ。1-2の絵図に描かれた、ジグザグになっている峠道のようによくわかるね。また、正面に写る鳥居のそばの建物は1-1の図によれば、体を清めるための禊ぎ殿だね。



1-4 絵葉書「鈴鹿峠（鈴鹿権現片山神社）」
 大正時代か／個人蔵

1-②

A. 関町坂下にある岩屋観音

江戸時代、岩屋観音は、東海道を歩いて旅行をする人々がおとずれた、とても有名な観光スポットだったんだ。滝もあって、今でもこの場所の前を通ると、水の流れる音が聞こえるよ。

では、江戸時代にこの場所がどのように紹介されていたのか、江戸時代に描かれた絵をみてみよう。



この絵は、江戸時代に東海道の名所として岩屋観音を紹介したものだよ。この絵では、岩窟の観音、つまり岩穴にある観音さまとして紹介しているけれど、この場所には滝もあるから、清滝観音とも呼ばれていたんだ。



1-5 浮世絵「五十三次名所図会四十九坂の下 岩窟の観音」
 安政2年 (1855)／亀山市歴史博物館蔵



もういちど、1-2の^{えず}絵図をみてみよう

1-2の^{えず}絵図で、^{いわやかんのん}岩屋観音を探してみよう。^{いわやかんのん}岩屋観音は、
この^{えず}絵図では「^{たきかんのん}瀧観音」と書いてあるよ。みつけられるかな？

ヒントは、右の^え絵の^{ばしょ}場所だよ。



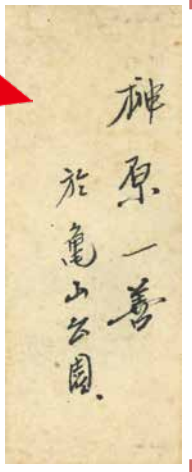
1-2 関宿西の追分から鈴鹿峠まで東海道絵図（岩屋観音部分）

1-③

B. 亀山城の近くの亀山公園

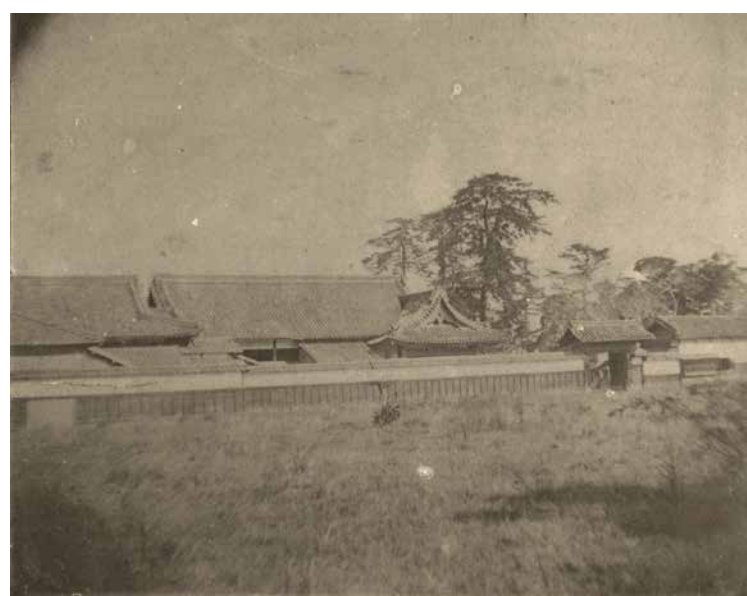
この写真の裏には「^{しゃしん} 榊原一善 ^{うら} 於 ^{さかきばらかずよし} 亀山公園 ^{かめやまこうえん}」と書かれてるよ。このことから、^{かめやまこうえん} 亀山公園で^{さつえい} 撮影したことはわかるんだけど、^{かめやまこうえん} 亀山公園のどこかまではよくわからない。おそらく、^{しょうぶいけ} 菖蒲池から^{じどうえん} ますみ児童園にのぼるあたりじゃないかな。

なお、^{さかきばらかずよし} 榊原一善は江戸時代に、^{ぶし} 武士だった人だよ。ほかに、^{めいじじだい} 明治時代に^{さつえい} 撮影された写真には、^{しゃしん} 亀山城を^{かめやまじょう} 撮ったものがあるよ。



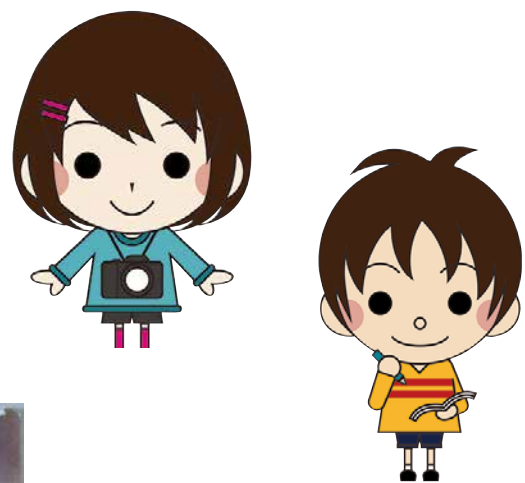
1-6 亀山城三重櫓
明治5 (1872) 頃撮影 / 亀山市歴史博物館蔵

この^{たてもの} 建物は、^{めいじ} 明治5年 (1872) 頃 ^{ごる} までに^{さつえい} 撮影されたと考えられている。 ^{かめやまじょう} 亀山城の^{さんじゅうやぐら} 三重櫓だよ。 ^{かめやまじょう} 亀山城の^{たてもの} 建物の ^{たか} 中でいちばん^{たてもの} 高い建物だったためか、 ^{むかし} 昔の^ず 図には「^{てんしゅ} 天守」と書かれたものもあるけれど、^{かめやまじょう} 亀山城の^{てんしゅ} 天守は江戸時代 ^{えどじだい} の^{はじ} 初め頃に^{ごる} 解体されたと伝わっているんだ。 ^{いご} 以後、^{てんしゅ} 天守を^た 建てたことはないから、^{てんしゅ} 天守ではなく^{さんがい} 三階建ての^だ 櫓なんだよ。



1-7 亀山城二之丸御殿
明治5 (1872) 頃撮影 / 亀山市歴史博物館蔵

この^{たてもの} 建物は、^{げんざい} 現在の^{かめやまにししょうがっこう} 亀山西小学校の ^{ばしょ} 場所に^た 建っていた^{かめやまじょう} 亀山城^に 二之丸^の 御殿 ^{ごてん} だよ。この^{ごてん} 御殿には、^{じょうしゅ} 城主や^{けらい} 家来が^し 仕事をする^{やくしょ} 役所の^{ぶぶん} 部分と、^{じょうしゅ} 城主と^{けらい} 家来が ^{あつ} 集まる^{おお} 大きな^{ひろま} 広間と、^{じょうしゅ} 城主の^{じゅうきょ} 住居があったんだ。



1-8 亀山城大手門
明治5 (1872) 頃撮影／亀山市歴史博物館蔵

おおもん げんざい えがむろ こうばん
大手門は、現在の江ヶ室の交番の
そばにあったよ。
かめやまじょう みなみ あおきもん ひがし
亀山城には、南にある青木門と東
にある大手門が正門としての役割を
していたんだよ。



1-9 亀山城京口門
明治5 (1872) 頃撮影／亀山市歴史博物館蔵

きょうぐちもん しろ はな しろ
京口門は、城から離れた城
の門だよ。現在の京口坂橋をの
ぼりきったあたりにあったよ。
かんぶん じょうしゅ
寛文9年 (1669) に、城主の
いたくらしげつね ひじょうじ どうかいどう
板倉重常が、非常時の東海道の
と し た
取り締まりのために建てたんだ。

1-④

C. 関ロヅ裏の新池

この大きな池は、はじめからあったようにみえるけど、実は、明治時代につくられた新しい池なんだ。

江戸時代まで旅行客でにぎわっていた関の町は、明治時代になって鉄道が敷かれたことで、客が来なくなって、商売ができなくなったんだ。そこで、志のある人があつまって、山林を開拓して、水田と、水田に水をひくための貯水池をつくったよ。この池が関ロヅの裏にある新池だよ。

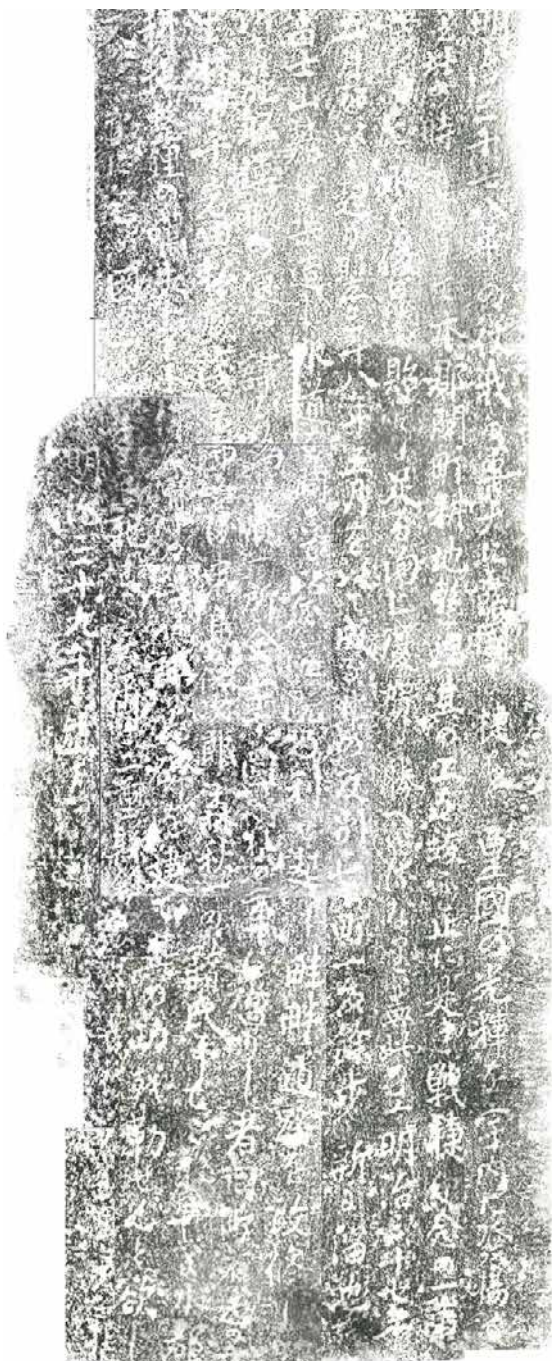
新池ができた後、この功績をたたえて、関小学校のすぐそばにあるまるやま公園の頂上に石碑が建てられたんだ。この石碑には、この新池を造った理由などが書かれているんだって。さて、その石碑にはなんと書かれているんだろう？



この碑は、まるやま公園の頂上にあるよ。見に行ったら、長い間、雨や風にさらされたことによって、石に刻まれた文字が、だいぶ読めなくなっていたよ。

1-10 新池の碑
令和5年5月亀山市歴史博物館撮影

ほとんど、読めなかった字を少しでも読めるように、墨を使って文字を写し取ったよ。この写し取ったものを拓本というんだ。



1-11 新池の碑（拓本）
令和5年6月亀山市歴史博物館採取

明治三十七八年の役我か軍大に露国に捷ち 皇国の光輝を宇内に発揚せり此の時に嘗て本郡関町耕地整理其の工を竣ふ正に是れ戦捷紀念の一事業□□永く後日□賂にて□足る洵に慶賀に勝へかるなり乎□此の工明治三十七年五月を以て起り翌三十八年五月を以て成る其の反別七町一反餘歩新に溜池を富士山麓に築造し水道を開きて以て落漑の利を起し畦畔道路を改修して以て施□運搬の便を謀る為に費す所金七千円になり事に当りし者同町有志の士中林市平岩田松蔵浅原市兵衛中島□次郎森秋一の諸氏にして□□実に本郡耕地整理の嚆矢なり小作人某々相議して碑を建て其功を勒せんと欲し文□□□□□□因り□□□□記

明治三十九年十一月
三重県鈴鹿郡長從七位北野孝一撰



拓本をとったら、これだけ読めたよ。
残念ながら、□は読めなかった字だよ。



石碑は、難しい言葉で書かれているね。何が書いてあるか簡単に説明すると、明治37年から38年（1904～1905）におこった日露戦争の戦勝記念事業として、農地を整理したんだって。明治37年5月から38年5月までかかって、中林市平さん・岩田松蔵さん・森秋一さん達の5人が、新しい田んぼを造って、さらにこの田んぼに水をひくための貯水池を関富士の麓に造ったんだ。この費用は、当時の金額で七千円かかったよ。この石碑は、この5人の功績をたたえて建てたんだって。

1-⑤

かぶといちば たいこおど
C. 加太市場の太鼓踊り

かっこ (かんこ) を胸につけて踊る踊りは、市内では、「かんこ踊り」とか「太鼓踊り」と呼ばれているんだ。かぶと おど たいこおど よ

かぶと たいこおど げんざい ぼん とき はつぼん くよう おど
加太の太鼓踊りは、現在では8月のお盆の時に初盆供養として踊られているけれど、記録によれば、江戸時代のころは、日照りが続いた時に、雨乞い祈願のために踊っていたこともあったようだよ。そして、今は三重県の無形民俗文化財(芸能)に指定されているんだ。

しなひ おど たいこおど おど はながさ よ かさ かぶと
市内のかんこ踊りや太鼓踊りでは、踊り子は花笠と呼ばれる笠をかぶるけれど、加太の太鼓踊りでは、花笠の上に灯籠や切子をのせる地域もあって、これは、加太の太鼓踊りの特徴の一つだね。



1-12 加太市場の太鼓踊り
昭和62年(1987)撮影/亀山市歴史博物館蔵

いちば たいこおど かさ
市場の太鼓踊りの笠は、「一」の字の
たい かたち いちもんじがさ
ような平らな形の一文字笠の上に
きりこ
切子をのせて、さらにその上に はなえだ
花枝
かざ
を4本飾るんだ。

ぼん しんぶくじ けい
お盆の8月15日に神福寺の境
だい おど はつぼん くよう おど
内で踊るよ。初盆供養として踊るの
で、初盆の家がない年は踊らないん
はつぼん いえ おど
だつて。



1-13 加太向井の太鼓踊り
平成21年(2009)撮影/『亀山市史』より

むかい たいこおど かさ いちもんじがさ ろうそく
向井の太鼓踊りの笠は、一文字笠の上に蝋燭
とも とうろう はなえだ かざ
を灯した灯籠をのせ、その上に花枝を飾っている
ね。

いちば おな はつぼん くよう
市場と同じで、初盆供養のため8月14日に
ちょうせんじ けいがい おど
聴川寺の境内で踊られているよ。

いたや たいこ おど かさ
 板屋の太鼓踊りの笠は、
 いちもんじがさ はなえだ ごへい
 一文字笠に花枝や御幣を立てた
 ものだよ。
 げんざい はつぼん くよう
 現在は、初盆供養のため8月
 おど
 15日に踊られているよ。



1-14 加太板屋の太鼓踊り
 平成20年（2008）撮影／『亀山市史』より



1-15 加太北在家の太鼓踊り
 昭和60年代～平成時代撮影か
 ／亀山市歴史博物館蔵

きたざいけ たいこ おど かさ いたや
 北在家の太鼓踊りの笠も、板屋のように
 いちもんじがさ はなえだ
 一文字笠の上に花枝を立てたものだよ。なお、
 おど しし おど ししがしら
 踊りの一つに、獅子踊りがあって、赤い獅子頭
 をかぶった踊り子と、獅子の伴として金と銀の
 おど しし とも ぎん
 御幣を立てた笠をかぶった踊り子が登場するん
 ごへい かさ おど どうじょう
 だ。この写真は、この獅子踊りを撮影したものだ
 しゃしん しし おど さつえい
 よ。

ちいき はつぼん くよう おど
 この地域も初盆供養のため8月15日に踊る
 よ。

なかざいけ たいこ おど かさ いちもんじ
 中在家の太鼓踊りの笠は、一文字
 がさ はなえだ りゅうえんじ じもん
 笠に花枝か龍淵寺の寺紋が入った
 きりこ しゃしん
 切子をのせたものをかぶるよ。写真
 きりこ かさ
 は切子をのせた笠だよ。
 ちいき はつぼん くよう
 この地域も初盆供養のため8月
 りゅうえんじ かんのだうまえ おど
 14日に龍淵寺の観音堂前で踊るよ。



1-16 加太中在家の太鼓踊り
 平成13年（2001）撮影か／亀山市歴史博物館蔵



かんこは、^{ちいき}地域^{おど}や踊る^{ねんれい}年齢によって
大きさが^{ちが}違うんだよ。この大きなかんこ
は^{ふともりちよういわもり}太森町岩森^{つか}で使われていたもので、
^{いわもり}岩森^{しょうわ}では昭和29年(1954)^{ごろ}頃まで、
^{まいとし}毎年^{ごろ}10月20日頃^{おど}にかんこ踊り^{おど}を踊っ
ていたんだって。

1-17 羯鼓 (かんこ)
昭和時代か／亀山市歴史博物館蔵岩森自治会資料



この^{ほらがい}法螺貝^{ふともりちよういわもり}も、太森町岩森の^{おど}かんこ踊り
^{ぎょうじ}の行事^{つか}で使われていたんだよ。市域の^{しいき}
^{おど}かんこ踊り^{たいこおど}や太鼓踊り^{うた}では、歌^{がく}や楽^{たいこ}太鼓、
^{ふえ}笛^{おど}にあわせて踊り、^{ほらがい}法螺貝^{つか}は、使う^{ちいき}地域と
^{つか}使わない^{ちいき}地域があるみたいだね。

1-18 法螺貝
昭和時代か／亀山市歴史博物館蔵岩森自治会資料



1-⑥

かめやまえき
A. 亀山駅

戦争中、地域で軍に召集される人がでると、めでたい事として、「祝出征〇〇君」や「祝応召〇〇君」など書いた幟を立ててお祝いしたんだ。そしていよいよ家を出発する日には、この写真のように、駅で家族や地域の人の見送りを受け出発したんだよ。写真に写る戦争に行く人は、勲章をつけた軍服を着て赤タスキをかけているね。勲章をつけていることから、この人は、以前に軍隊に入っていたことがあるんだね。

また、手には奉公袋を持っているよ。この奉公袋には、軍隊手帳や、自分の写真や遺髪などを入れたんだ。ここでは、実際に奉公袋に入れていたものもみてみよう。



1-19 出征前の家族写真
昭和時代 (戦中) / 亀山市歴史博物館蔵今井家資料

戦地に行くことを「出征」というよ。この写真は出征前に、自宅で家族と写真を撮った時のものだね。当時は、出征が決まると、このように家族写真を撮ったんだよ。ここに写る出征する人は、勲章や階級を表す襟章をつけていることから、一般の人ではなく軍人だということがわかるよ。

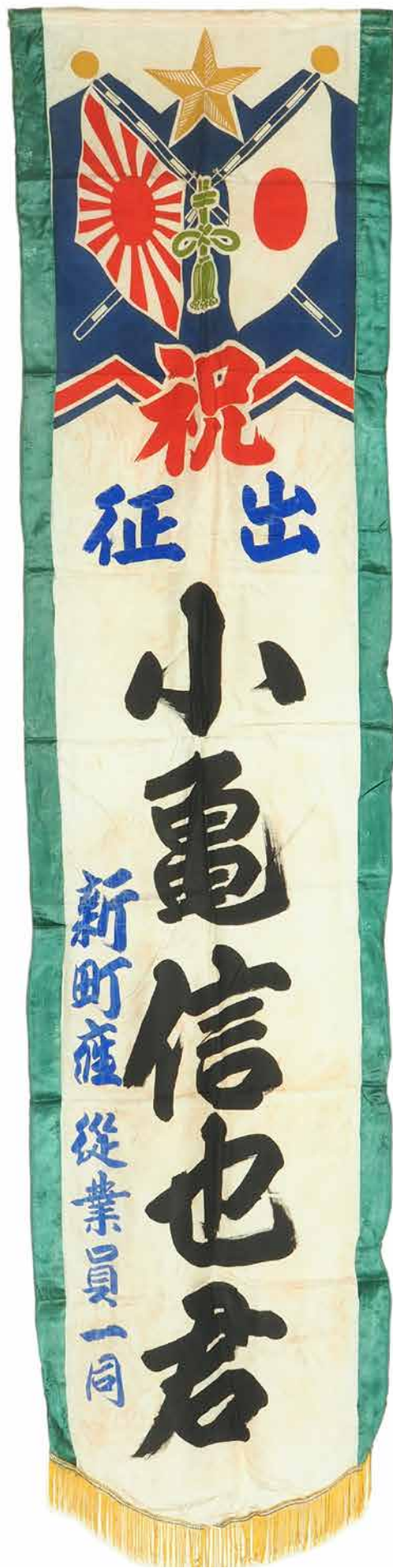


1-20 兵隊と子ども達
昭和時代(戦中)/亀山市歴史博物館蔵今井家資料

この写真に写る子ども達は、日の丸の旗を持っているよ。当時の子ども達は、日の丸の旗をふって出征を祝ったんだね。

このような幟は、出征する人のおいわいとして、親戚や知り合いから贈られて、家の前に飾られたんだ。駅での見送りの時にも用いられたよ。

また、軍隊を除隊した時も、このような幟を立ててお祝いをしたんだ。



1-21 出征幟
昭和時代(戦中)/小亀家資料

クイズの^{しゃしん}写真に^{うつ}写る^{しゅっせい}出征する人は、^{ぐんぷく}軍服を
^ま着ているね。^{けいさい}掲載している^{ぐんぷく}軍服は、^{しゃしん}写真と同
^じじものではないけれど、^{じっさい}実際に^{かめやま}亀山から^{しゅっせい}出征
^{ぐんじん}した^き軍人が^{ぐんぷく}着ていた^{ぐんぷく}軍服だよ。



1-22 軍服（上衣）
 昭和時代（戦中）／亀山市歴史博物館蔵小嶋家資料



この^{あかい}赤色の^{たすき}のたすきは、^{せんじちゆう}戦時中、^{ぐんたい}軍隊に入隊する人が^{かた}肩から
^{なな}斜めに^{ぜんこくてき}かけたんだ。^{しるいろ}全国的にみると^{ちいき}白色のたすきの^{ちいき}地域もあ
^{かめやま}ったよ。だけど、^{かめやま}亀山では、^{げんざい}現在のところ、^{しるいろ}白色のたすきは^{かくにん}確認
^{かた}できていないんだ。

なお、この^{ほか}他にも、^{かめやま}亀山では、^よみんなから^が寄せ書きをして^{もら}賞
^{こっき}った^{かた}国旗を、^{かた}たすきのように^{かた}肩からかけた人もいたよ。

1-23 赤たすき
 昭和時代（戦中）／亀山市歴史博物館蔵大川家資料

クイズの^{しゃしん}写真の^{ぐんじん}軍人が^{ぐんぼう}かぶっていた^{ぐんぼう}軍帽と
^{おな}同じ^{しゅるい}種類ものだよ。これは、^{りくぐん}陸軍の^{かしかん}下士官とい
^{かいきゆう}う^{かいきゆう}階級の人がかぶっていたんだ。ただし、^{あご}あご
^{あご}紐は^と取れて^な無くなっているね。



1-24 軍帽
 昭和時代／亀山市歴史博物館蔵西川家資料



1-25 奉公袋 (左:表・右:裏)
昭和時代 (戦中) / 亀山市歴史博物館蔵今井家資料

ほうこうぶくろ ぐんたい にゆうえい とし ひつよう も ふくろ いまいつとむ
奉公袋は、軍隊に入宮する時に、必要なものを入れて持って行く袋だよ。これは、今井孜さん
ほうこうぶくろ ぐんたいてちよう つつ ゆいごんじよう じぶん しゃしん いえい いはつ にもつ おく
の奉公袋で、中には、軍隊手帳、ビニールで包んだ遺言状・自分の写真 (遺影)・遺髪、荷物を送
る荷札、武運を祈願して贈られた千人針、油紙、紙、ガーゼに包まれた石けん、風呂敷などが入
にふだ ふうん きがん おく せんじんばり あぶらがみ かみ つつ せつ ふろしき
っていたよ。



軍隊手帳



遺言状



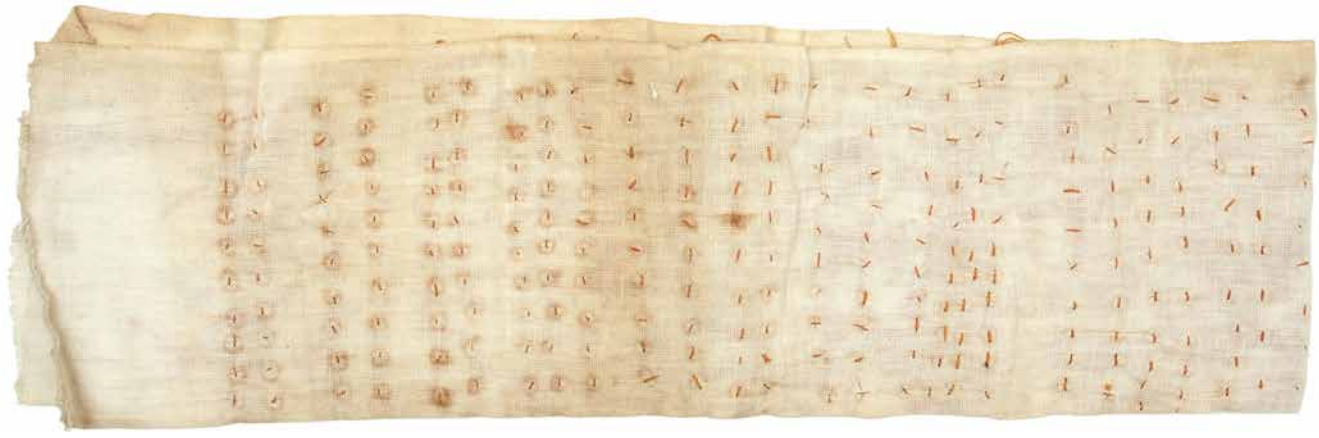
遺髪



遺影



遺影（裏）



千人針



荷札



油紙



石けん



紙



風呂敷 (「満州駐劄紀念」記念品)

2. ちがいをさがそう



《もんだい》

2-①

こめつく さぎょう すす じゅんじょ こうてい いま むかし か あき いね
 米作りの作業を進めていく順序（工程）は、今と昔でずいぶん変わってきているよ。秋に稲を
 か と こうてい いね もみ と だっこく さぎょう しゃしん しょうわ
 刈り取ってからの工程には、稲から粃を取るための脱穀という作業があるんだ。写真は昭和61
 年（1986）9月に行われた
 だっこく さぎょう
 脱穀作業だよ。

また、この写真には、乾燥
 しゃしん かんそう
 させるために「はさ」にかけ
 いね うつ こめ
 た稲も写っているね。お米を
 しゅうかく かんそう さぎょう
 収穫するためには、乾燥作業
 こうてい だいじ
 の工程はとても大事なんだ。
 いま むかし かんそう
 だけど、今と昔では、乾燥
 さぎょう おこな かいすう か
 作業を行う回数が変わって
 かんそう さぎょう おお
 いるよ。では、乾燥作業が多
 いま むかし
 いのは、今と昔のどっちでし
 ょう。



亀山市歴史博物館蔵

- A. ^{いま}今 B. ^{むかし}昔



亀山市歴史博物館蔵

2-②

せきしゆく まち な しょうわ
 関宿の町並みは、昭和59年（1984）12月10
 せきちょうせきしゆくでんとうてきけんせうぶつくん ほぞん ちく せんてい
 日に、関町関宿伝統的建造物群保存地区に選定さ
 しゃしん ほぞん ちく しょうわ
 れたんだ。この写真は、この保存地区の昭和62年
 ごろ せきちょうなまち ふうけい
 （1987）頃の関町中町の風景だよ。そして、ここに
 ご えどじだい ごろ せきしゆく けいかん もと
 は、この1年後、江戸時代の頃の関宿の景観に戻す
 いどう せつび うつ
 ために移動させた、ある設備が写っているね。

さて、その設備とはなんでしょう。写真をみて考え
 しょう。

このページのこたえと解説は、25～29 ページにあります。

2-③

この写真は、昭和61年(1986)頃しょうわに撮影された、中町三番町なかもちさんばんちょうの関せきの山車やまだよ。

あれ？、でも、現在の三番町げんざいさんばんちょうの山車やまとなんか違うよ。何が違うんだろう？

今の山車いまやまと大きく違うところを2か所探そう。ちょっとむずかしいぞ、わかるかな？



亀山市歴史博物館蔵

むかし
昔

ヒント：現在の三番町の山車の写真（下）とくらべてみよう。

いま
今



『亀山市史』より



このページのこたえと解説かいせつは、30～32 ページにあります。

2-①

むかし
B. 昔

げんざい
現在は、コンバインという稲の刈取りと脱穀がいちどにできる機械ができて、写真の
だっこくふうけい
ような脱穀風景は、ほとんどみられなくなったよ。そして、げんざい
だっこく
現在では、コンバインで脱穀した
あと もみ かんそうき
後、籾を乾燥機にかけて乾燥させているんだ。

とうじょう
コンバインが登場するまでは、稲刈り後、「はさ」と呼ばれる田んぼ
さお いね
に立てた竿に、稲をかけてまず天日干ししたんだ。その後、乾燥した稲
だっこく さいど もみ わら あ むしろ
を脱穀して、再度、籾を藁で編んだ筵の上などで天日干ししたりして
かんそう
乾燥させていたよ。むかし いま
昔は、今よりもっとたいへんだったんだね。

しゃしん うつ だっこくき どうりよくだっこくき
なお、写真に写る脱穀機は、動力脱穀機といい、あしぶみしきだっこくき かいりよう
足踏式脱穀機を改良
だっこくき はっどうき
したものなんだ。脱穀機と発動機をベルトでつないで、あし
だっこく
も脱穀できるようになったんだよ。



2-1 足踏式脱穀機

昭和時代（戦中）／亀山市歴史博物館蔵

あしぶみしきだっこくき えんとうじょう どう ぶぶん
足踏式脱穀機の円筒状の胴の部分は、V字をひっくりかえした形の針金がたくさんついで
かたち はりがね
るよ。人がペダルを足で踏むと、この胴が回転し、回転した胴に稲穂を当てることで、だっこく
ふ
脱穀できるんだ。機械の動力で胴を回転させる動力脱穀機が登場するまで使われていたよ。

あしぶみしきだっこくき ながたしきこくぼうごう か
なお、この足踏式脱穀機は、「永田式国防号」と書かれているね。このことから、しょうわ せんじちゅう
昭和の戦時中
だっこくき
につくられた脱穀機であることがわかるよ。



2-2 千歯扱きの歯
近代以降／亀山市歴史博物館蔵

せんばこ えどじだい ちゅうき あしぶみしき
千歯扱きは、江戸時代中期から足踏式
だっこくき どうじょう つか だっこくよう
脱穀機が登場するまで使われていた脱穀用の
のうく だてつ は すきま いね さき ほ
農具だよ。鉄でできた歯の隙間に稲の先の穂
ぶぶん ひ いね もみ
の部分をいれて引くと、稲から籾がはずれる
しく
仕組みなんだ。



せんばこ く た じょうたい せんばこ
これは、千歯扱きを組み立てた状態だよ。千歯扱き
は は む く た つか
は足をつけて、歯が上を向くように組み立てて使う
よ。

参考 千歯扱き
昭和時代／亀山市歴史博物館蔵富田家資料

しゃしん うつ げんざい いね か
写真に写っているのは、現在の稲刈
つか
りで使われているコンバインという
きかい
機械だよ。コンバインは、稲の刈り取
いね か と
りと同時に脱穀とお米の選別ができる
どうじ だっこく こめ せんべつ
優れものなんだ。だから、今は昔のよう
いま むかし
に、刈り取り後の「はさかけ」と脱穀機
だっこくさぎょう ひつよう
による脱穀作業をする必要がなくなっ
たんだ。コンバインで脱穀された籾は、
じたく はこ
自宅やライスセンターなどに運んで、
かんぞう もみ もみがら と のぞ げんまい
乾燥と籾から籾殻を取り除いて玄米に
もみ さぎょう
する「籾すり」という作業がおこなわ
れるよ。



2-3 コンバインでの作業風景
昭和50年代／亀山市歴史博物館蔵富田家資料



しゃしん あとさく むぎ か
写真は、後作の麦をコンバインで刈って
ふうけい むぎ か
いる風景だよ。コンバインは麦も刈ることが
できるんだって。

2-②

でんちゆう
電柱

せきしようせきじゆくでんとうてきけんぞうぶつほぞんちく むでんちゆうか しょうわ いこう きゅうとう
 関町関宿伝統的建造物群保存地区では、無電柱化のため、昭和63年（1988）以降、旧東
 かいどう とお でんちゆう ぜんぶ しきち うら い
 海道の通りにあった電柱を全部、敷地の裏がわに移
 どう いま とお でんちゆう
 動させたんだ。だから、今は、この通りには電柱がない
 んだよ。

げんざい ほぞんちく めいしよう かめやまし
 そして、現在は、この保存地区の名称が、「亀山市
 せきじゆくでんとうてきけんぞうぶつぐんほぞんちく か
 関宿伝統的建造物群保存地区」に変わっているよ。

むでんちゆうかじっしじき
 〈無電柱化実施時期〉
 しょうわ なかまち ちく
 昭和63年（1988）…中町地区
 へいせい こざき ちく
 平成10年（1998）…木崎地区
 へいせい しんじよ ちく
 平成12年（2000）…新所地区



むでんちゆうかまえ ほぞんちく
 無電柱化前の保存地区の
 なかまち まちな さつえい
 中町の町並みを撮影したもの
 しゃしん ばしよ せきゆびんきよく
 だよ。写真の場所は、関郵便局
 ふかわや まえ
 と深川屋の前だね。



2-4 無電柱化前の保存地区の中町の町並み
 昭和63年（1988）頃／亀山市歴史博物館蔵



むでんちゆうかまえ ほぞんちく
 無電柱化前の保存地区の
 こざき まちな しゃしん
 木崎の町並みだよ。写真は、
 よしのや にし
 吉野屋のあたりから西に向かっ
 さつえい
 て撮影しているよ。



2-5 無電柱化前の保存地区の木崎の町並み
 昭和63年～平成10年（1988～1998）頃／亀山市歴史博物館蔵



むでんちゅうかまえ ほぞんちく しんじよ まち
無電柱化前の保存地区の新所の町
な みぎがわ うつ いえ やね かめ
並みだよ。右側に写る家は、屋根に亀
しっくいちょうこく いえ にし おいわけ
の漆喰彫刻がある家だね。西の追分
む さつえい
に向かって撮影しているよ。

むでんちゅうか
無電柱化
まえ

2-6 無電柱化前の保存地区の新所の町並み
昭和63年～平成10年（1988～1998）頃／亀山市歴史博物館蔵



むでんちゅうかご ほぞんちく なかまち まち
無電柱化後の保存地区の中町の町
な せきゆうびんきょくまえ ひがし む
並みだよ。関郵便局前から東に向か
と
って撮っているよ。

むでんちゅうか
無電柱化
あと

2-7 無電柱化後の保存地区の中町の町並み①
昭和63年（1988）頃／亀山市歴史博物館蔵



しやしん むでんちゅうかご ほぞんち
この写真も、無電柱化後の保存地区の
なかまち まち な ひやくろくりてい
中町の町並みだよ。百六里亭あたりから
にし む と
西に向かって撮っているよ。

むでんちゅうか
無電柱化
あと

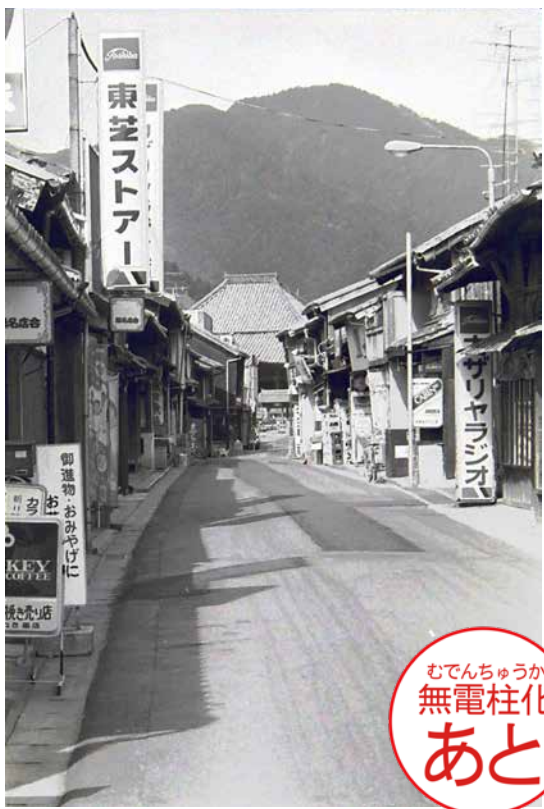
2-8 無電柱化後の保存地区の中町の町並み②
昭和63年（1988）頃／亀山市歴史博物館蔵



この写真も、^{しゃしん}無電柱化後の^{むでんちゅうか}保存地区の中町の町並みだよ。^{ほぞんち}吉野屋前^{なかまち}まから^{まちな}西^{にし}に向か^むって撮^とっているよ。

2-9 無電柱化後の保存地区の中町の町並み③
昭和63年（1988）頃／亀山市歴史博物館蔵

下の写真も、^{しゃしん}無電柱化後の^{むでんちゅうか}保存地区の中町の町並みだよ。^{いどう}かねき伊藤彦一商店前^{ほぞんち}あたりから^{なかまち}西^{にし}の地蔵院^{じぞういん}に向か^むって撮^とっているよ。クイズの^{でんちゅう}電柱がある^{しゃしん}写真と^{おな}ほぼ同じ^{ばしょ}場所を^{さつえい}撮影しているね。もういちどクイズの^{しゃしん}写真と^{くら}比べてみよう。



2-10 無電柱化後の保存地区の中町の町並み④
昭和63年（1988）頃／亀山市歴史博物館蔵



クイズの写真

2-③

やね てんしょうじ ちょうちん
屋根（天障子）と提灯

なかまちさんばんちょう やま へいせい だいしゅうり とき しゅうりまえ
中町三番町の山車は、平成14年（2002）に大修理がおこなわれたんだ。この時、修理前
にはなかった、「唐破風」の形の障子屋根（天障子）がついたよ。そして、提灯に描かれてい
るいる三番町を表す紋が、「三つ引紋」から「三」をデザインした紋に変更されたんだ。

この関の山車は、江戸時代から伝わるといわれ、現在では、4輛になってしまったけれど、
もともと 16 輛あったんだって。人ごみの中を道いっぱい巡回するようすから、精いっぱい
とか、限度いっぱいという意味の「関の山」という言葉の語源となったといわれ、現在は、
7月下旬におこなわれる関神社の祭礼で曳き回されるよ。夜には、提灯に火が入った山車の
上部が勢いよく回転して、とってもきれいなんだ。

関の山車は、それぞれ特徴があるから、他の地区の山車もみてみよう。



2-11 中町三番町の山車

撮影：[山車] 平成18年（2006） [見送幕] 平成21年（2009）／亀山市史より

なかまちさんばんちょう やま りゅう ちょうこく りゅう ししゅう まく りゅう やま
中町三番町の山車には、龍の彫刻とか、龍が刺繍された幕とか、龍がたくさんいるよ。山車の
うし みおくりまく しょうこうりゅうず ひき りゅう ししゅう
後ろにつける見送幕も「昇降龍図」といって、2匹の龍が刺繍されているよ。

なかまちよんばんちょう やま ほか ちく やま ちが くるいろ うるし む へいせい
 中町四番町の山車は、他の地区の山車と違い、黒色の漆が塗られているよ。平成23年(2011)
 しゅうふく さんばんちょう やね やま うし みおくりまく ず べんぎいてん
 の修復で、三番町のように屋根がついたんだ。山車の後ろにつける見送幕の図は弁財天だね。



2-12 中町四番町の山車
 撮影：平成28年(2016)／亀山市まちなみ文化財G所管

きたうら やま しる しょうぞく き ねぎ にんぎょう げんぞん
 北裏の山車は、なんといっても、白い装束を着た祢宜のからくり人形が目をひくね。現存する
 せき やま にんぎょう きたうら にんぎょう ねぎ て も
 関の山車の中で、からくり人形があるのは北裏だけ。このからくり人形の祢宜が、手に持っている
 ささ は ゆ まわ はら みおくりまく ず はくりゅうもんりゅうず
 筥の葉でお湯を周りにかけてお祓いをするんだって。なお、見送幕の図は、「伯龍紋龍図」って
 いうんだって。



2-13 北裏の山車
 撮影：[山車] 平成17年(2005) [見送幕] 平成21年(2009)／亀山市史より

しがけん みなくち ゆず つた こぎき やま ほか ちく やま はやし
 滋賀県の水口から譲られたと伝わる木崎の山車には、他の地区の山車とちがって、お囃子を
 えんそう ばしよ まえ すこ は だ ばしよ でばやし こども すわ
 演奏する場所の前に、少し張り出した場所があるんだ。ここは「出囃子」といって、子供が座って
 たいこ ばしよ
 太鼓をたたく場所になっているんだよ。

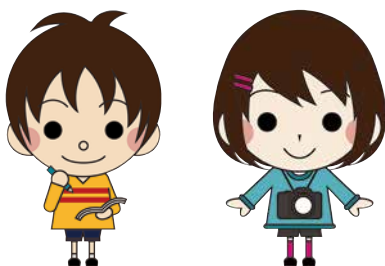
みおくりまく がませんにんず はしふうけいず こうご しょう
 また、見送幕は、「蝦蟇仙人図」と「橋風景図」があって、交互に使用するんだって。だけど、な
 がませんにんず まく あめ ふ
 ぜか、蝦蟇仙人図の幕をかけると雨が降るんだとか。



2-14 木崎の山車（見送幕は「蝦蟇仙人図」
 撮影：平成18年（2006）／亀山市史より



見送幕「蝦蟇仙人図」
 撮影：平成18年（2006）／亀山市史より



3. これは、何をなにしているのでしょうか？



《もんだい》

3-①

この写真には、橋の上を神主かんぬしを先頭せんとうにたくさんの人が、列れつをなしているようすが写うつっているね。じつは、これは昭和10年（1935）10月3日に、野村のむらの忍山橋おしやまばしでおこなわれたある儀式ぎしきのようすを撮とったものなんだ。

さて、この人たちは、何なんの儀式ぎしきをしているのでしょうか。

- A. 川が氾濫はんらんしないように祈願きがんする儀式ぎしき
- B. できたばかりの橋を渡る渡り初めわた ぞの儀式ぎしき
- C. 雨乞あまごいの儀式ぎしき



岡本家蔵（寄託）

このページのこたえと解説かいせつは、35～38 ページにあります。



3-②

かっぱう着ぎ きを着た女性達じょうせいたちが集まって、外あつで何かなにかを作つくっているね。筵むしろの上なにかに何かなにかをしきつめて、天日干してんぴ ぼしているみたいだよ。さあ、写真しゃしんの女性達じょうせいたちは何なにかを作つくっているのでしょうか。

- A. 切り干し大根き ぼ だいこん B. あられ C. 干し芋ほ いも



岡本家蔵（寄託）

3-③

これは、安坂山町あさかやまちょうで昭和30年代後半しやうわ だいごうはん いこう さつ以降いこうに撮影さつえいされた写真しゃしんだよ。家の前いえのまえにとまっている黒色くろいろの車くるまの周りまわに、近所きんじよの人ひとがたくさん集あつまっているね。これは、何をなにしているのでしょうか。

- A. 引っ越しひ こ
 B. 花嫁はなよめの出発しゅつぱつ
 C. 買った車か くるまの自慢じまん



亀山市歴史博物館蔵小林（昌）家資料

このページのこたえと解説かいせつは、39～40 ページにあります。

3-①

B. 初めて橋を渡る渡り初めの儀式

忍山橋は、亀山警察署の南にある鈴鹿川にかかっている橋だよ。この写真に写る忍山橋は、写真をよくみると「昭和9年10月竣工」と書かれていることが確認できるので、昭和9年（1934）にできた橋であることがわかるよ。そして橋ができてから1年後に、開通式の儀式（式典）がおこなわれ、地域の人たちにお披露目されたんだ。

このような橋の開通式のことを「渡り初め」といい、この時の渡り初めでは、鈴鹿川の河原にテントを張って、神事を執りおこなっているよ。その後、みんなで橋を渡ったんだね。

この他、市内の別の橋でも渡り初めをしているよ。他の写真もみてみよう。



3-1 忍山橋の渡り初めの神事の様子
昭和10年（1935）／岡本家蔵（寄託）



昭和10年（1935）10月3日におこなわれた、忍山橋の渡り初めの式典では、河原にテントを張って神事がおこなわれたんだ。多くの子供達も、この式典に参加しているね。



この上下2枚の写真も、忍山橋の渡り初めだよ。ただし、この橋は欄干がなく、昭和9年（1934）にかけられた橋とは、あきらかに違う橋だね。この橋がいつかけられたのかは、わからないけれど、クイズの写真や3-1の写真と同じアルバムに貼られていたから、もしかしたら、昭和9年にかけられた橋のひとつ前にかけられていた仮橋だったかもしれないね。



3-2 忍山橋の渡り初め
昭和9年（1934）年以前か／岡本家蔵（寄託）



3-3 両尾橋の渡り初め
昭和時代／亀山市歴史博物館蔵小林（昌）家資料

この写真は、両尾橋の渡り初めを撮影したものだよ。両尾橋は、野登小学校のすぐ近くにある、安楽川にかかる橋だよ。

この写真も安楽川にかかる橋の渡り初めを撮影したものだよ。写真に写る長尾橋は、ライオンズ橋のひとつ上流にかかっている、安坂山町にある橋だよ。



3-4 長尾橋の渡り初め
昭和時代／亀山市歴史博物館蔵小林（昌）家資料



この2枚の写真は、昭和12年（1937）7月にできた勸進橋の渡り初めだよ。勸進橋は、関町木崎にある県道10号津関線（通称、伊勢別街道）の鈴鹿川にかかる橋だよ。この渡り初めでは、テープカットがおこなわれたんだね。

3-5 勸進橋の渡り初め
昭和12年（1937）／亀山市歴史博物館蔵関町史編さん資料

9年前の平成26年（2014）のことだけど、忍山神社の南側を流れる鈴鹿川に、忍山大橋という大きな橋がかけられ、3月30日に渡り初めの式典がおこなわれたんだ。これは、その時配られた粗品の備蓄用缶詰パンだよ。



3-6 忍山大橋の渡り初めの粗品
平成26年（2014）／亀山市歴史博物館蔵

3-②

C. 干し芋

これは、昭和15年（1940）頃に撮影された写真だよ。手前のかっぱう着を着ている女性をよくみると、「大日本国防婦人会」と書かれたたすきをかけているね。この大日本国防婦人会は、昭和7年（1932）から昭和17年（1942）2月まであった全国規模の婦人会なんだ。写真の女性達は、大日本国防婦人会の会員で、干し芋作りの奉仕活動のために集まっているんだよ。

この写真の頃は戦時中で食糧難だったんだ。そこで、路地でも栽培ができるさつまいもの積極的な栽培が推奨されていたんだ。このさつまいもを原料とする干し芋は、カロリーが高く長期保存にも優れていることから、当時、携行食や保存食としても重宝されたんだよ。



写真に写る「大日本国防婦人会」のたすきをかけた女性



3-7 干し芋作り
昭和15年（1940）頃／岡本家蔵（寄託）

この2枚の写真は、戦時下であった昭和15年（1940）頃の干し芋作りのようすを撮影したものだよ。男性達によって、さつまいもが運ばれ、女性達の手で干し芋が作られているようすがわかるね。

3-③

はなよめ しゅっぱつ
B. 花嫁の出発

しゃしん
写真は、よくみると、ウェディングドレスを着た花嫁さんが、車に乗りこもうとしているところだよ。つまり、この写真は、花嫁の嫁ぎ先への嫁入りを撮影したものなんだ。近所の人
は、お祝いを言いに来たり、花嫁さんを見るために集まっているんだね。

なお、日本でウェディングドレスが流行るのは、昭和30年代後半くらいからなんだって。それまでは、和装が多かったんだとか。



はなよめ の くるま まえ
花嫁が乗る車の前には、タ
ンスや布団、衣紋掛けなどの
かざい どうぐ
家財道具をたくさん積んだ
トラックがとまっているよ。
はなよめ よめい
花嫁が嫁入りするときに持参
する道具類は「嫁入り道具」
といわれ、たくさんトラックに
つ しゃっぱつ
積んで出発するのは、嫁ぎ
さき せいかつ こま
先の生活で困らないようにと
い い み
いう意味があるんだって。

3-8 花嫁の出立

昭和時代／亀山市歴史博物館蔵小林（昌）家資料



このキャンドルは、結婚披露宴で新郎・新婦が幸せを祈って
てんか
点火したローソクで、亀山ローソク株式会社（現、株式会社カ
めヤマ）が販売したよ。披露宴で新郎・新婦の席に置かれ、大
はんばい
ブームになったキャンドルなんだ。披露宴の後は自宅に持ち帰
ひろうえん あと じたく も かえ
り、銀婚式となる結婚25年目まで、毎年、記念日のパーティー
ぎんこんしき けっこん
で使えるように、25までの数字の紙がついているよ。まいとし きねんび

3-9 ウェディングハッピーキャンドル

昭和時代／亀山市歴史博物館蔵内田家資料

4. これは、なんでしょう？



《もんだい》

4-①

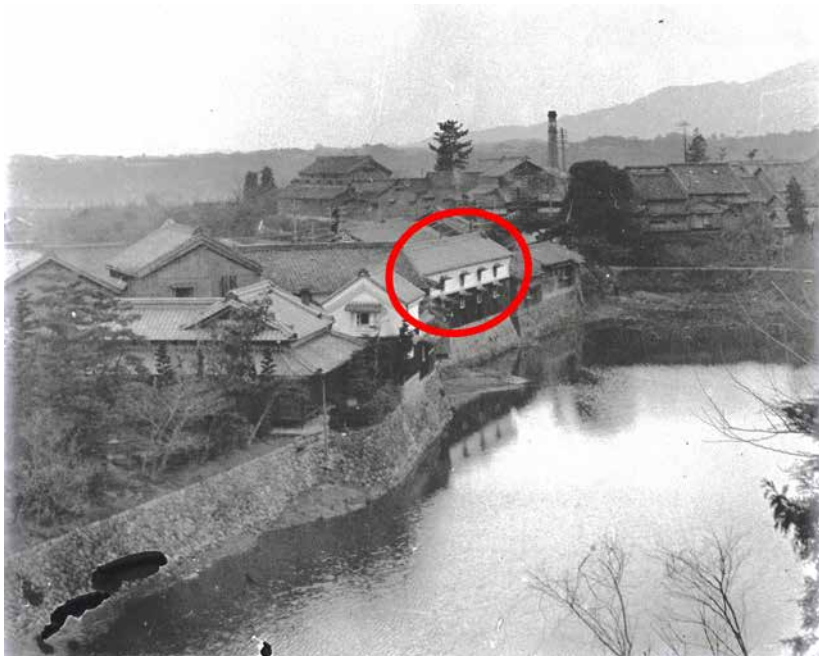
この写真は、昭和4年（1929）10月6日に撮影されたよ。写っている建物は、西町にあって、
当時の亀山の主要産業に関係していたお店なんだ。さて、このお店の商売はなんでしょうか。

- A. 肥を売る肥料店
- B. 蚕の繭をあつかう繭糸問屋
- C. 種や苗を売る種苗店



ヒント
客は、桑の葉
を集めるときに
使う籠になにか
を入れて持参し
ているよ。

亀山市歴史博物館蔵橋爪（道）家資料



亀山市歴史博物館蔵旧佐野家住宅資料

4-②

この写真に写る池は、市役所
の南側にある池の側だよ。赤丸
で印をつけたこの建物はなんで
しょう。

- A. 酒蔵
- B. 製糸場
- C. お城の建物

このページのこたえと解説は、45～48ページにあります。



岡本家蔵（寄託）

4-③

江戸時代に植えられた、この大きな木はなんでしょう。

- A. 本町の三本松
- B. 古厩の御厩の松
- C. 野村一里塚の棕の木



4-④

昭和29年（1954）に撮影されたこの建物は、東町にあったよ。現在のかつき内科の場所に建っていたんだ。

さて、この大きな建物はなんででしょう。

- A. 郵便局
- B. 百貨店
- C. 小学校



亀山市歴史博物館蔵

このページのこたえと解説は、49～52 ページにあります。

4-⑤

この建物は、井田川駅近くの、現在、二宮金次郎像があるあたりにあったよ。この建物はなん
 でしょう。

A. 井田川村図書館

B. 井田川村役場 (井田川支所)

C. 井田川小学校



亀山市歴史博物館蔵



亀山市歴史博物館蔵

4-⑥

昭和初期、写真のような
 形のバスがこの地域を走
 っていたんだよ。では、この
 ようなバスの形はなんとい
 うでしょう。

A. 木炭バス

B. ネコバス

C. ボンネットバス

このページのこたえと解説は、52～56 ページにあります。

4-⑦

この写真に写っている人たちうち何人かは、^{しゃしん} ^{うつ} ^{なんにん} ^{かくざい} ^{ぼう} ^{かざ} ^も 角材のような棒の先に飾りがついたものを持っているよ。

これは、なんででしょうか。

A. ^{じょうとうしき} ^{たてまえ} ^{つか} ^や ^{かざ} 上棟式（建前）で使った矢飾り

B. ^{のうそん} ^か ^ぶ ^き ^{つか} ^{こどうぐ} 農村歌舞伎で使う小道具



亀山市歴史博物館蔵小林（昌）家資料

4-⑧

この女性は、^{じよせい} ^{きもの} ^き ^{あたま} ^{もの} 白い着物を着て、頭は白いかぶり物をしているよ。

さて、この白い着物、いつ着たの？

- A. ^{けっこんしき} 結婚式
- B. ^{そうしき} 葬式
- C. ^{ふじんかい} 婦人会



亀山市歴史博物館蔵岡嶋家資料

このページのこたえと解説は、^{かいせつ} 57～63 ページにあります。

4-①

B. 蚕の繭をあつかう繭糸問屋

明治20年（1887）以降、亀山では、輸出用の生糸をつくる製糸工場が次々とでき、農家でも、蚕を育てて繭をとる養蚕業がさかんになったんだ。とうぜん、農家から繭を買い取って商売をする繭糸問屋もできたんだ。

写真の建物は、亀山にあった繭糸問屋の一つで、お店の名前を「丸周繭糸問屋」といったよ。写真は、農家が繭を納めにきている光景だね。なお、丸周繭糸問屋は、昭和15年（1940）まで営業していたんだって。



これも昭和4年（1929）10月6日に撮影された、丸周繭糸問屋の店先だよ。大八車に積んで納品に来た人など、たくさんの人であふれかえっているね。

4-1 丸周繭糸問屋の店先
昭和4年（1929）／亀山市歴史博物館蔵橋爪（道）家資料

これは、蚕繭（さんけん）といって、蚕の繭（かいこ）だよ。蚕は、1500メートルほどの糸（いと）を吐き出して繭（まゆ）をつくるんだよ。この繭（まゆ）から生糸（きいと）や絹糸（きぬいと）ができるんだ。



4-2 蚕繭
亀山市歴史博物館蔵

4-②

せいしじょう
B. 製糸場

めいじ かめやま さいしょ せいしこうじょう たなか せいしじょう しゃしん
明治20年（1887）、亀山で最初の製糸工場となる田中製糸場ができたんだよ。写真に
あかまる しるし たてもの たなか せいしじょう たてもの
赤丸で印をつけた建物は、この田中製糸場の建物なんだ。

せいし かいこ むし そだ まゆ かいこ てん
製糸とは、蚕という虫を育てて、その繭をほどいて糸にすることで、蚕が作り出した天
ねん さいと
然の糸を「生糸」というんだよ。そして、この製糸は、蚕を育てて繭にする工程を農家がおこ
まゆ こうてい せいしこうじょう
ない、繭から糸にする工程は製糸工場がおこなっていたんだ。このようにたくさんの人が製
しぎょう かが かめやま せいし ようさん
糸業に関わっていたことから、亀山は、「製糸のまち」とか「養蚕のまち」とよばれていたん
だよ。

たなか せいしじょう めいじ かめやま せいし かぶしきがいしゃ ひがしみゆきちょう げんざい
なお、田中製糸場は、明治44年（1911）に亀山製糸株式会社として、東御幸町の現在の
ばしょ うつ
場所に移っているよ。

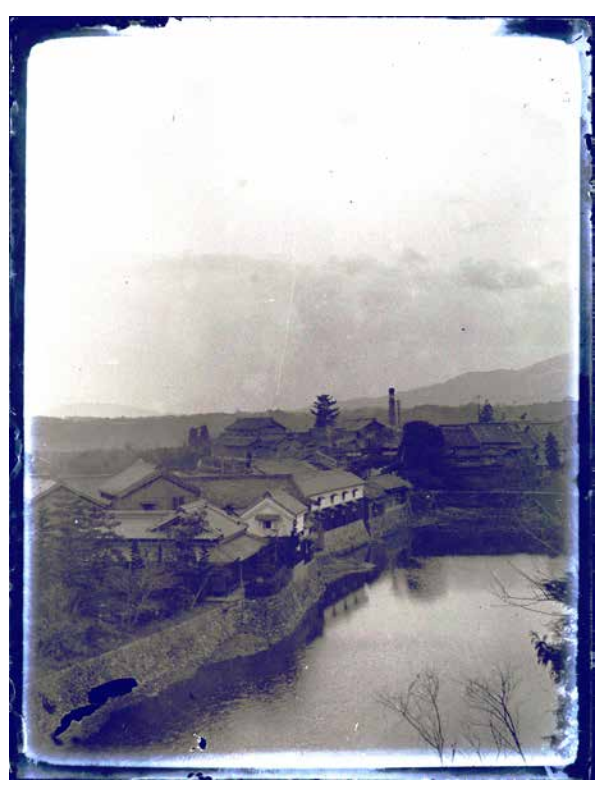


しゃしん いた
この写真は、フィルムではなく、ガラスの板に
や 焼きつけてあるよ。ネガなので、ぱっと見は何が
なに
写っているのかわからないけれど、実はクイズ
うつつ じつ
の写真は、このガラス乾板に写っていた写真な
しゃしん かんばん うつつ しゃしん
んだよ。

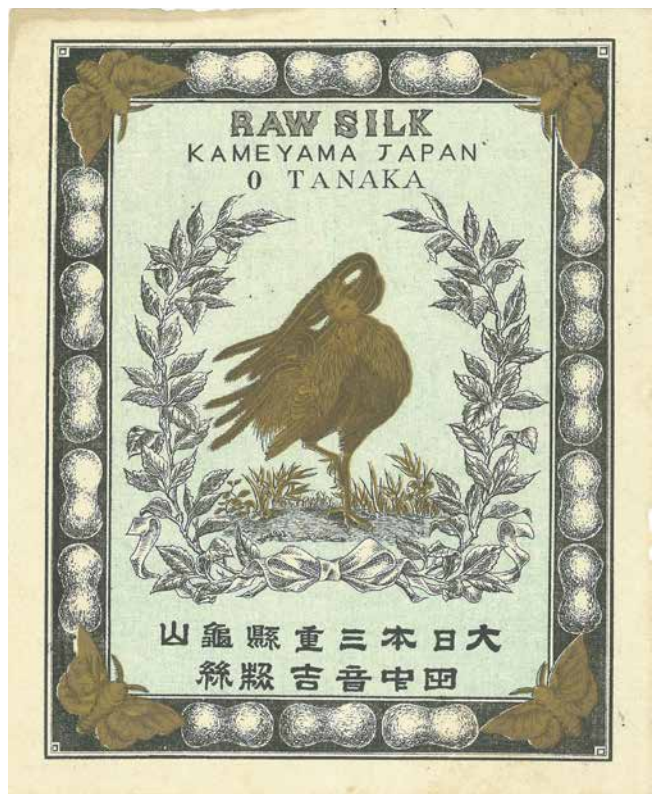
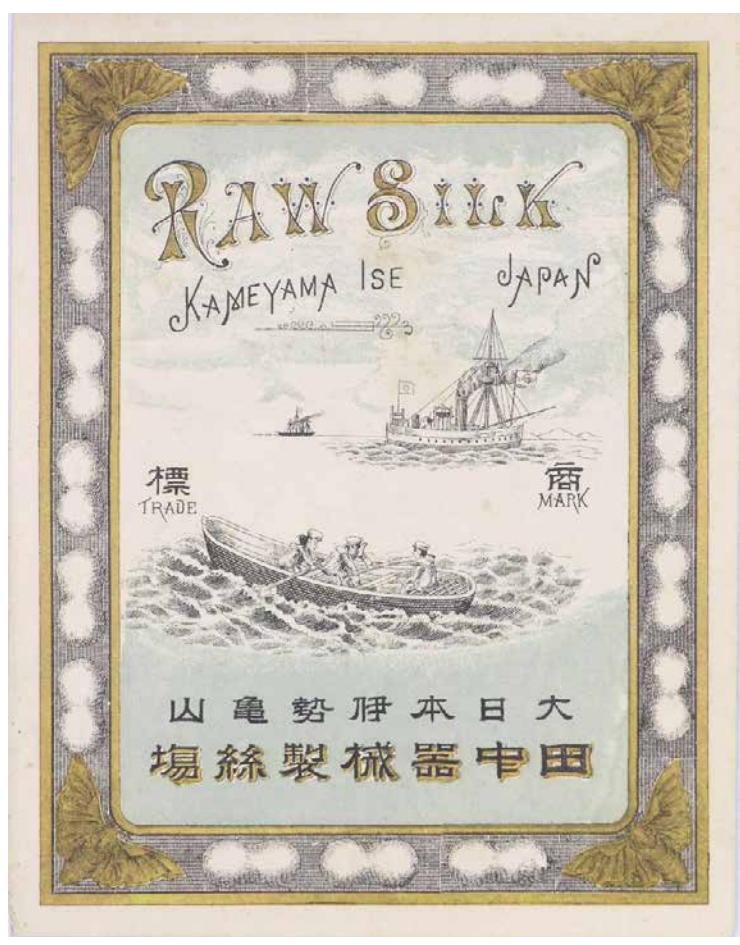
4-3 ガラス乾板
大正14年（1925）
亀山市歴史博物館蔵旧佐野家住宅資料



さつえいご
デジカメで撮影後、パソ
コンで画像の色を反転し
がぞう いろ はんてん
てみえるようにしたよ。



このラベルは、^{たなかせいじょう}田中製絲場でつくられた^{きいと しゅつか}生糸を出荷するときにつけた^{しょうひん}商品ラベルだよ。
 「RAW SILK」とは英語で^{えいご}生糸という^{いみ}意味だね。



4-4 田中製絲場商品ラベル（3点）
 明治20年～明治44年（1887～1911）頃／亀山市歴史博物館蔵



4-5 田中音吉銅像の壮行会
昭和17年（1942）頃／亀山市歴史博物館蔵橋爪（道）家資料

この写真に写る銅像は、田中製絲場をつくった
田中音吉だよ。大正6年（1917）に西町の田中製
絲場があった所のすぐそばに建てられたんだ。だ
けど、戦時中の金属回収令によって、銅像も回収
の対象になったため、この銅像も回収されること
になったんだ。だから、この銅像は、出征兵士のよ
うに赤たすきをかけているんだよ。



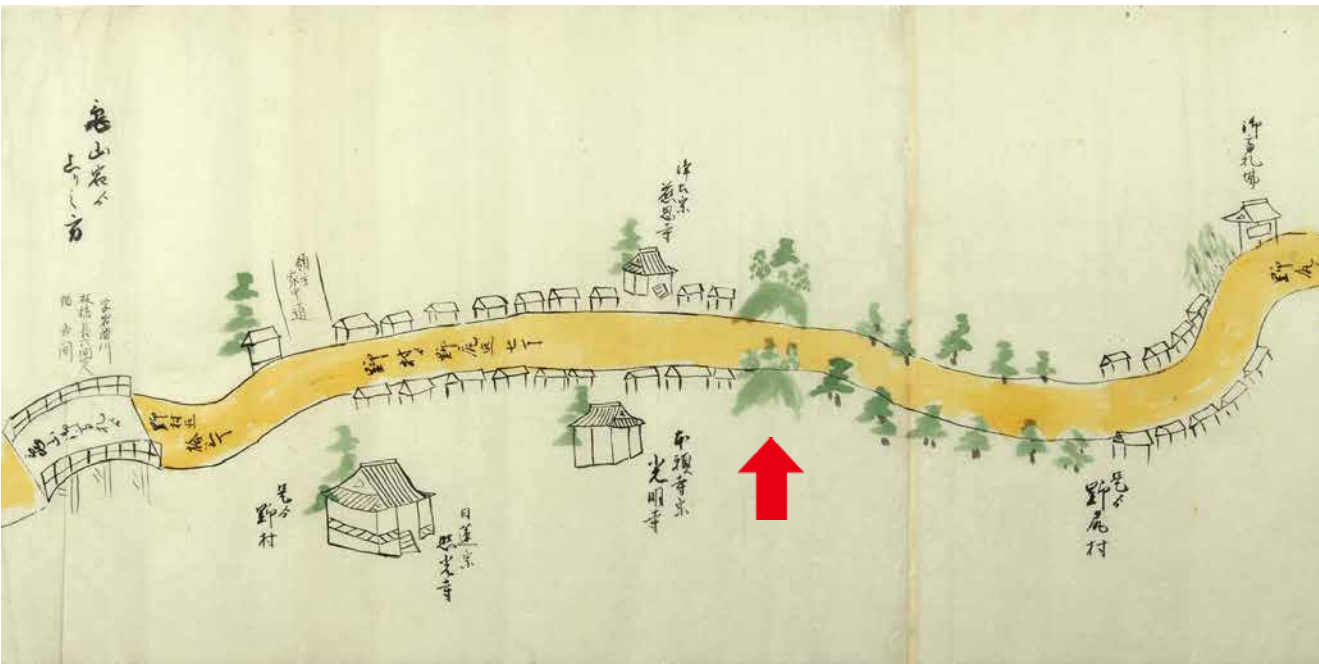
田中音吉銅像部分拡大

4-③

のむら いちりづか むく
C. 野村一里塚の棕の木

いちりづか けいちょう どうかいどう ある たびびと きゆうけいばしょ ある きより めやす
一里塚は、慶長9年（1604）、東海道を歩く旅人の休憩場所や、歩いた距離の目安になる
ように、徳川家康が築かせたんだ。一里（約4km）ごとに塚を築かせたから一里塚というよ。
また、塚が崩れないようにするために、塚の上に木を植えさせたんだ。そして、この野村一里
塚に植えられている木は、棕の木なんだ。

それから、クイズの選択肢になっていた他の3本の松の木は、今はないけれど、昔は有名
で写真にもものこっているから、いっしょにみてみましょう。



4-6 東海道絵図（部分）
江戸時代か／亀山市歴史博物館蔵田中（稲）家資料

のむら いちりづか いま きたがわ つか
野村一里塚は、今は北側の塚しかのこっていないけれど、もともとは、道の両脇に塚があっ
たんだよ。その証拠に、この絵図にもちゃんと道の両脇に塚が描かれているね。



えず うえがわ えが
絵図の上側に描かれ
ているのが、今はない
みなみがわ いちりづか
南側の一里塚だよ。





4-7 三本松
昭和時代初期／亀山市歴史博物館蔵

この写真の檀尻の後ろに写っているのが本町にあった三本松なんだ。この三本松は、江戸時代の絵図にも描かれているんだよ。今は、木はなくなっちゃったけれど、地名としてのこったよ。



4-8 宮村の松
年代不詳／亀山市歴史博物館蔵

今はないけれど、昔、下庄に大きな松の木があったんだよ。この松の木は宮村家の前にあったから、「宮村の松」と呼ばれて親しまれていたんだ。



4-9 御厩の松
年代不詳／亀山市歴史博物館蔵

御厩の松とは、古厩の集落の入り口にあった大きな松のことだよ。古時代に鈴鹿駅家があったという伝承があって、この駅家に常備されていた馬20足をつないでいた松と伝えられているんだ。今は切り株のみが、大井神社跡に保存されているよ。

4-④

ゆうびんきょく
A. 郵便局

たてもの たいしょう た かめやまゆうびんきょく しょうわ
この建物は、大正7年（1932）に建てられた亀山郵便局です。昭和50年（1975）まで
ひがしまち た ご げんざい ぼしょ いどう ほか ゆうびんきょく
東町に建てていたんだ。その後、現在の場所に移動しているよ。他の郵便局もみてみよう。



むかし いだかわゆうびんきょく たてもの
昔の井田川郵便局の建物だ
もくぞうけんちく
よ。木造建築だね。

4-10 井田川郵便局
昭和時代／亀山市歴史博物館蔵



4-11 関郵便局
昭和時代／中林大典家蔵

むかし せきゆうびんきょく たてもの むかし せきゆうびんきょく げんざい せきゆうびんきょく にし かわきたほんじんあと
昔の関郵便局の建物だよ。昔の関郵便局は、現在の関郵便局より西の、川北本陣跡のあたり
げんざい せきゆうびんきょく ぼしょ せきちようやくば せきちようやくば いどう
にあったんだよ。そして、現在の関郵便局の場所には、関町役場があったんだ。関町役場が移動
せきゆうびんきょく せきちようやくば あと ひ こ
したことにともない、関郵便局も関町役場の跡へ引っ越したんだね。

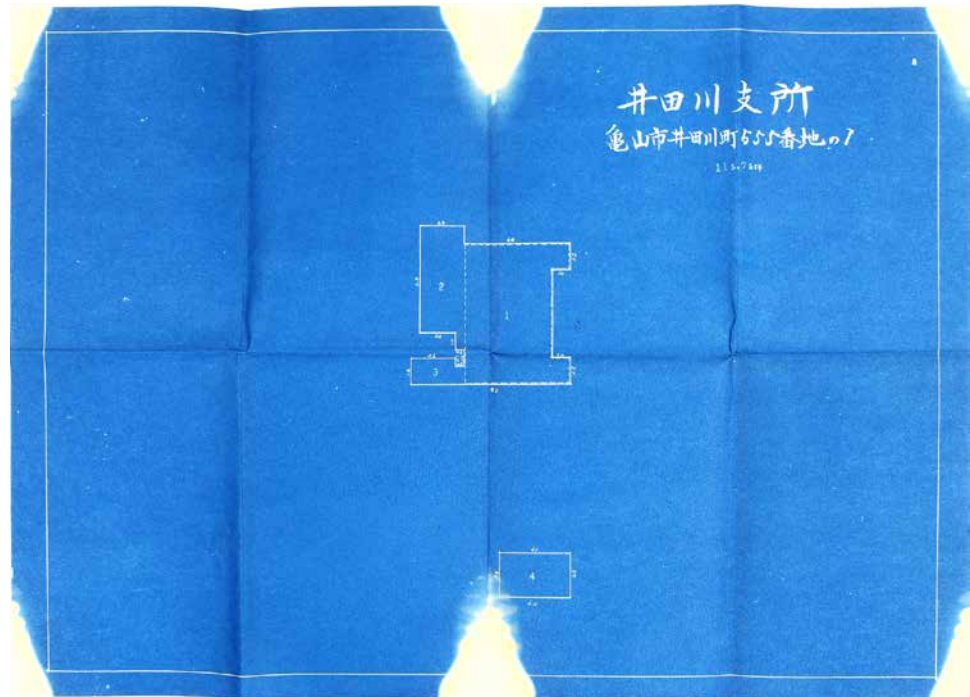


はかり むかし せきゆうびんきょく つか
 この秤は、昔の関郵便局で使
 られていた郵便物の重さを量
 るためのものだよ。台座には、
 「逓信省」と書かれているね。逓
 信省は、昔あった郵便や通信な
 どを管轄した中央官庁だったん
 だ。

4-12 秤
 昭和時代／中林大典家蔵

4-⑤
 B. 井田川村役場（井田川支所）
 井田川村役場は、木造の建物で、旧東海道沿いに建っていたんだよ。
 そして、井田川村は、昭和29（1954）年10月1日に町村合併し、亀山市井田川町となっ
 たんだよ。これにともない井田川村役場は、井田川支所になったよ。

たてものひょうかちょうしょ
 建物評価調書と
 いう書類によれば、
 井田川村役場（井田
 川支所）は昭和8年
 （1933）に建てられた
 ことがわかるんだ。そ
 して、建物の写真と比
 べると、図面の右側が
 役場の玄関のある側
 で、旧東海道に面して
 いることがわかるよ。



4-13 井田川支所図面
 昭和29年（1954）頃／亀山市歴史博物館蔵

ひがしまるちよう かめやまちようやくば たてもの
 東丸町にあった亀山町役場の建物
 は、明治45年（1912）に建てられ
 たんだって。そして、この建物は、昭和
 29年（1954）10月1日に亀山町・
 ひるおむら かわさきむら ののぼりむら いだがわむら
 昼生村・川崎村・野登村・井田川村が
 がっぺい かめやまし たんじよう あと しょう
 合併して亀山市が誕生した後は、昭
 わ
 和33年（1958）に今の場所に引っ
 こ しゃくしよ つか
 越すまで、市役所として使われたんだ
 っ。



4-14 亀山町役場
 昭和29年（1954）以前／亀山市歴史博物館蔵



4-15 昼生村役場（昼生支所）
 昭和29年（1954）頃／亀山市歴史博物館蔵

ひるおむら やくば たてもの もくぞう さゆう
 昼生村役場の建物は、木造で左右
 たいしよう ひるおむら やく
 対称だったんだね。そして、昼生村役
 ば ひるおむら しょうわ
 場は、昼生村が、昭和29年（1954）
 ちようぞんがっぺい
 10月1日に町村合併したことにより、
 ひるおししよ
 昼生支所となったんだよ。



4-16 野登村役場
 昭和29年（1954）頃／亀山市歴史博物館蔵小林（昌）家資料

むかし ののぼりむら やくば たてもの
 これは、昔の野登村役場の建物だ
 ののぼりむら ひるおむら おな しょう
 よ。野登村は、昼生村と同じように、昭
 わ
 和29年（1954）10月1日の町村合
 べい しょうめつ ののぼりむら やくば たてもの
 併で村名が消滅し、野登村役場の建物
 ののぼりししよ つか
 は、そのまま野登支所として使われる
 ことになったんだ。

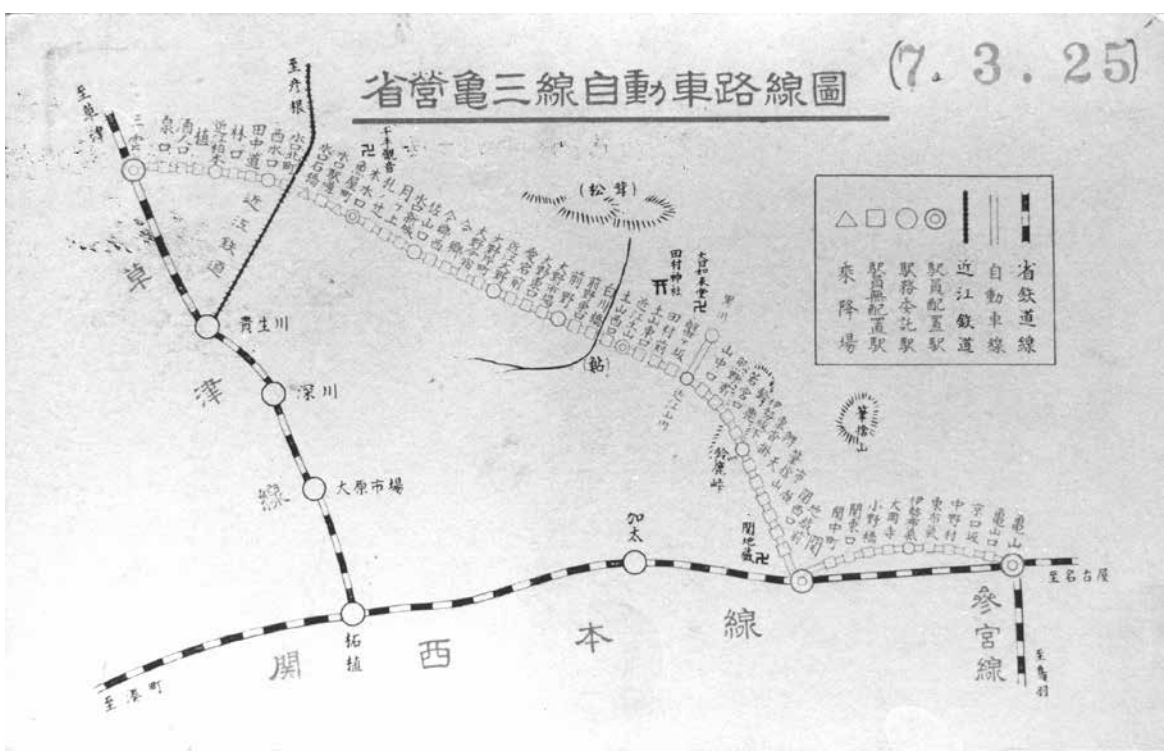
4-⑥

C. ボンネットバス

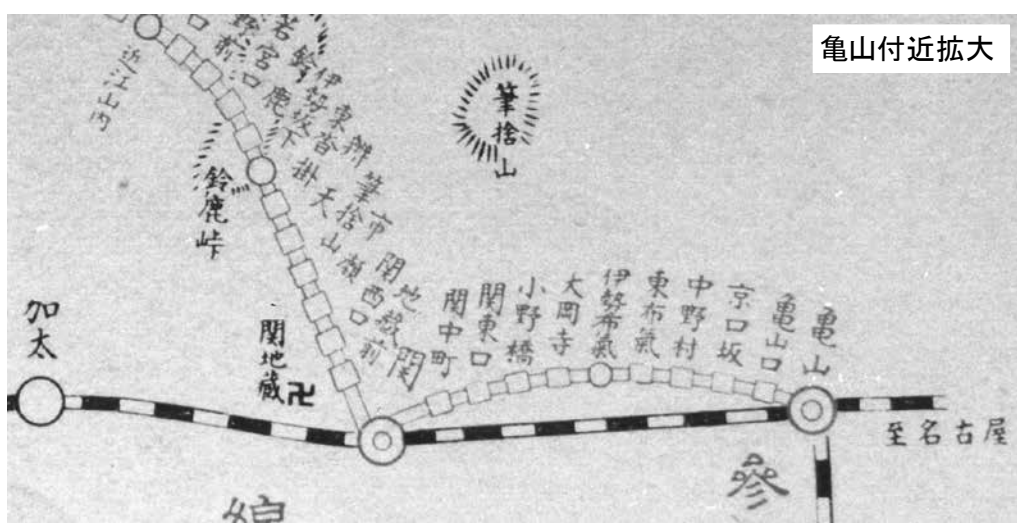
自動車じどうしゃのエンジンおおの覆おほいをボンネットというよ。そして、ボンネットバスとは、ボンネットがついたバス、つまり、運転席うんてんせきより前まえにエンジンつを積つんだバスのことなんだつて。昔むかし、市内しんないを走はしっていたバスでは、三重交通みえこうつうの路線バスるせんでもボンネットバスはしが走はしっていたことがあるよ。

なお、クイズの選択肢せんたくしにあった木炭バスもくたんとは、ガソリンがの代わりに木炭もくたんを燃料ねんりょうにして動うごかしたバスのことだよ。そのため、バスの後うしろから煙けむりを吐はいて走はしっていたんだつて。

昭和初期しょうわしよきに亀山駅かめやまえきと三雲駅みくもえきかん間うんこうを運行しょうえいしていた省営バスるせんずの路線図しょうえいだよ。「省営」の省しょうは、鉄道省てつどうしやうのことなんだ。



4-17 省営亀三線自動車路線図
昭和7年 (1932) / 亀山市歴史博物館蔵





かめやま はし しょうえい
亀山を走っていた省営
バス。形は通称ボンネット
バス。後ろに自転車がのせ
られるようになっている
ね。

しゃしん
この写真は、
しゃしん
クイズの写真と
おな
同じだよ。



4-18 ボンネットバス（省営バス）
昭和7年（1932）頃／亀山市歴史博物館蔵

かめやま はし しょうえい
亀山を走っていた省営バスの
うち、貨物トレーラを牽引した
バスだよ。右の写真の場所は、
とんねる
鈴鹿トンネルの入り口だね。下
の写真は「亀山行」にな
っているよ。



4-19 貨物トレーラーつきバス（省営バス）
昭和7年（1932）頃／亀山市歴史博物館蔵



4-20 ボンネットバス（三重交通）
昭和27年（1952）頃／亀山市歴史博物館蔵

みえ こうつう しょうわ どうにゅう ひ の じどうしゃ が た てんいん
三重交通が昭和27年（1952）に導入した日野自動車のBH10型ボンネットバス。定員65人。

4-⑦

A. 上棟式（建前）で使った矢飾り

写真の前列に1人だけ半纏を着ている人がいるよ。この人の半纏の襟に、「野登寺新築記念」って文字が入っているんだ。僧侶も写っているし、この写真は、野登寺の建物を建てた時の上棟式（建前）での集合写真だと想像することができるよ。

そして、数人の人が手に持っている矢の形などをした飾りは、上棟式（建前）の時に屋根の上などに飾られた魔除けの道具だよ。近年ではハウスメーカーによる建て売り住宅も多く、上棟式（建前）をすること自体が少なくなっているけれど、昔は上棟式（建前）で魔除けなどの目的でこのような飾りが飾られたんだね。

では、亀山で実際に飾られた矢飾りをみてみよう。

本町にあった劇場新町座の上棟式（建前）で使われた矢飾り。矢の形は鏑矢と雁又。



（表）銘無し



（裏）銘「昭和六年九月拾五日」



（表）銘「上棟式 新町座」



（裏）銘「昭和六年九月拾五日」

4-21 矢飾り（鏑矢・雁又）

昭和6年（1931）頃／亀山市歴史博物館蔵波田家資料

かめやまじんじょうこうとうしょうがっこうぞうちく しょうとうしき つか や かざ やさきはそん
 亀山尋常高等小学校増築の上棟式で使われた矢飾り。(矢先破損)



(表) 銘「上棟式 亀山尋常高等小学校増築」



(裏) 銘「昭和四年十一月八日」

4-22 矢飾り (鏑矢)

昭和4年 (1929) 頃 / 亀山市歴史博物館蔵波田家資料

4-⑧

B. 葬式

写真の白色の着物は、結婚式で着る白無垢のようにもみえるけれど、実は、喪服として着られていたんだよ。頭にかぶっているのは、「角隠し」といわれるかぶり物だね。亀山では、昭和初期頃までは、女性の白い着物 (喪服) 姿がみられたんだよ。女性の中には、嫁入り道具に白無垢を持参する人もいて、それを喪服として着ていたんだって。

でも、だんだんと、黒色の喪服を着るようになり、これが定着すると、白い着物を着る人がいなくなったんだって。たしかに、現存する昭和初期頃の葬式の写真をみても、ほとんどの人が黒い着物や洋服を着ているね。



しょうわ
 昭和2年 (1927)
 葬式での集合写真だよ。白い着物 (喪服) を着た女性達を写したものだね。

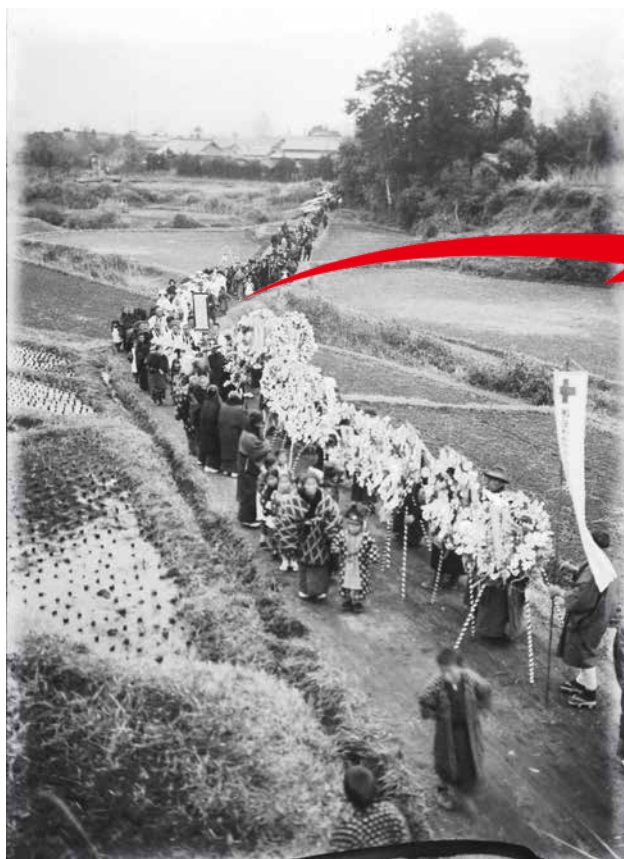
4-23 白い喪服姿の女性達

昭和2年 (1927) / 亀山市歴史博物館蔵橋爪 (道) 家資料



4-24 野辺送り（出棺）
大正14年（1925）頃／亀山市歴史博物館蔵旧佐野家住宅資料

のむら そうしき しゅつかん とき さつえい きもの もふく き じよせい うつ
野村での葬式で、出棺の時のようすを撮影したんだね。白い着物（喪服）を着た女性が写っているよ。



写真に写る白い喪服姿の女性達

しやしん おな そうしき しやしん
4-24 の写真と同じ葬式の写真だよ。わかり
うつ
にくいけれど、4-24 に写っている白い喪服の
じよせいたち の べ おく ぎょうれつ ま すこ まえ
女性達は、野辺送りの行列の真ん中より少し前
ある ぎょうれつぜんたい
あたりを歩いているよ。そして、行列全体をみ
くる いろ ふく ぞう おお
ても、黒色の服装の人が多いことがわかるね。

4-25 野辺送り
大正14年（1925）頃／亀山市歴史博物館蔵旧佐野家住宅資料

の べ おく ぎょうれつ そうれつ もち たつがしら ぼう さき と どうろう てんがい しほんばた
 野辺送りの行列（葬列）で用いられる龍頭は、棒の先に取りつけて、灯笼や天蓋、四本幡を
 つりさげて使うんだ。火を灯した灯笼は魔除けとなり、亡くなったばかりの荒ぶる魂を魔から
 まも 守るといわれているよ。ちいさな天蓋は、柩の上にさしかけて使ったんだ。そして、四本幡には、
 しょうぎょうむじょう ぜしやうめつぽう しょうめつめつい じゃくめついらく か いっぱんてき
 「諸行無常」「是生滅法」「生滅滅已」「寂滅為楽」と書くのが一般的なんだって。

しょうかい たつがしら わだちやう じち かい むかし つか そうぎ お
 ここに紹介している龍頭は、和田町自治会で、昔に使われていたもので、葬儀が終われば、
 どうろう しほんばた つか かみ すべ はが ほかん いま ほねく
 灯笼や四本幡などに使った紙は全て剥がして保管するんだって。だから、今は骨組みしかない
 よ。



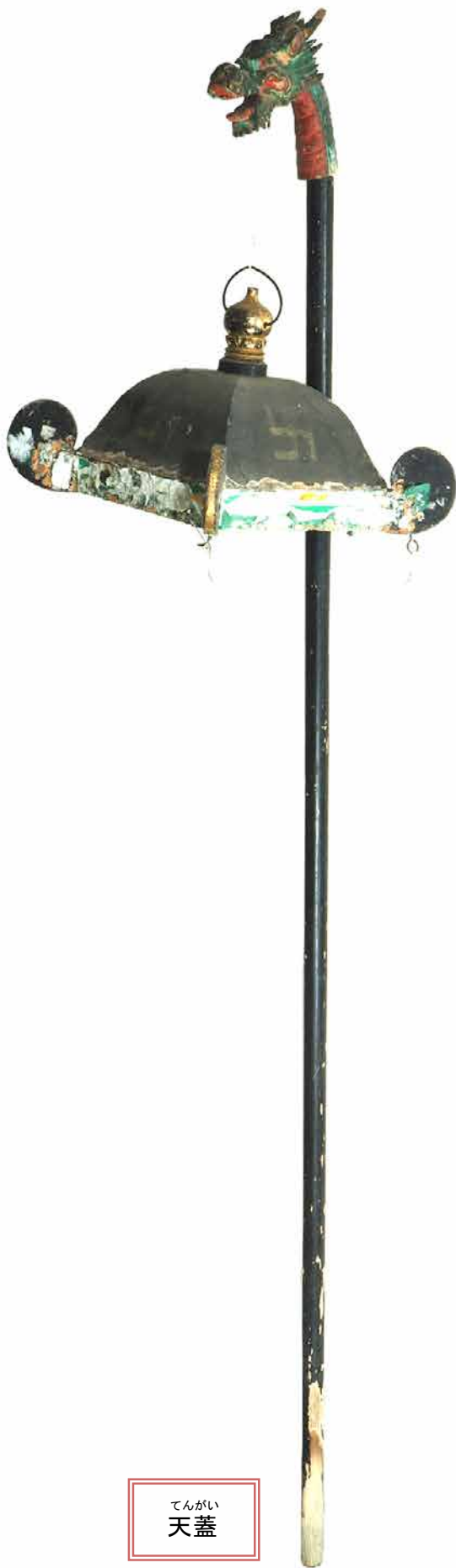
わだちやう じち かい どうろう
 和田町自治会では、灯笼が4本、
 てんがい しほんばた ごうけい
 天蓋が1本、四本幡が4本あり、合計9
 たつがしら もち たつがしら かお
 体の龍頭を用いていたよ。龍頭の顔も、
 すこ
 よく見ると少しずつちがっているね。



龍頭



とうろう
灯籠



てんがい
天蓋



しほんばた
四本幡

4-26 龍頭
昭和時代／亀山市歴史博物館蔵和田町自治会資料

いたい すわ しせい ひつぎ ざかん ざかんよう じんりきれいきゆうしゃ いたい はか
遺体を座った姿勢で入れる棺を座棺というよ。これは、座棺用の人力霊柩車で、遺体をお墓
はこ つか いたい う どそう まいそうほうほう
まで運ぶのに使ったよ。遺体をそのまま土の中に埋める、土葬という埋葬方法をしなくなった
ら、使わなくなったんだって。



4-27 人力霊柩車

昭和11年（1936）購入／亀山市歴史博物館蔵和田町自治会資料



ぎかんよう れいききゆうしゃ しょうわ はじ ごろ つか
 これも座棺用の霊柩車だよ。昭和40年（1965）代初め頃まで使ってい
つか そうしき とき いえ まえ かざ
 て、使わなくなってもしばらくは、葬式の時に家の前に飾っていたんだって。
わだちょう じちかい れいききゆうしゃ しゃりん つか
 和田町自治会の霊柩車とちがって、車輪にタイヤを使っているよ。



4-28 人力霊柩車
 昭和36年（1961）購入／亀山市歴史博物館蔵井尻町自治会資料

出品目録

本図録の掲載順に記載しています。

Q：もんだい

1. これは、どこでしょう？

Q1-①	片山神社本殿 [写真]	亀山市歴史博物館蔵
Q1-②	岩屋観音 [写真]	亀山市歴史博物館蔵
Q1-③	亀山公園 [写真]	亀山市歴史博物館蔵
Q1-④	新池 [写真]	中林大典家蔵
Q1-⑤	加太市場の太鼓踊り [写真]	亀山市歴史博物館蔵
Q1-⑥	亀山駅での出征見送り [写真]	岡本家蔵(寄託)
1-1	伊勢国鈴鹿山図	亀山市歴史博物館蔵
1-2	関宿西の追分から鈴鹿峠まで東海道絵図	亀山市歴史博物館蔵
1-3	鈴鹿峠 [絵葉書]	亀山市歴史博物館蔵
1-4	鈴鹿峠(鈴鹿権現片山神社) [絵葉書]	個人蔵
1-5	五十三次名所図会四十九 坂の下 岩窟の観音 [浮世絵]	亀山市歴史博物館蔵
1-6	亀山城三重櫓 [写真]	亀山市歴史博物館蔵
1-7	亀山城二之丸御殿 [写真]	亀山市歴史博物館蔵
1-8	亀山城大手門 [写真]	亀山市歴史博物館蔵
1-9	亀山城京口門 [写真]	亀山市歴史博物館蔵
1-10	新池の碑 [写真]	亀山市歴史博物館蔵
1-11	新池の碑 [拓本]	亀山市歴史博物館蔵
1-12	加太市場の太鼓踊り [写真]	亀山市歴史博物館蔵
1-13	加太向井の太鼓踊り [写真]	亀山市歴史博物館蔵
1-14	加太板屋の太鼓踊り [写真]	亀山市歴史博物館蔵
1-15	加太北在家の太鼓踊り [写真]	亀山市歴史博物館蔵
1-16	加太中在家の太鼓踊り [写真]	亀山市歴史博物館蔵
1-17	羯鼓(かんこ)	亀山市歴史博物館蔵
1-18	法螺貝	亀山市歴史博物館蔵
1-19	出征前の家族写真 [写真]	亀山市歴史博物館蔵
1-20	兵隊と子ども達 [写真]	亀山市歴史博物館蔵
1-21	出征幟	小亀家蔵
1-22	軍服(上衣)	亀山市歴史博物館蔵
1-23	赤たすき	亀山市歴史博物館蔵
1-24	軍帽	亀山市歴史博物館蔵
1-25	奉公袋	亀山市歴史博物館蔵

2. ちがいをさがそう？

Q2-①	稲の脱穀の様子 [写真]	亀山市歴史博物館蔵
Q2-②	昭和62年頃の関宿中町の風景 [写真]	亀山市歴史博物館蔵
Q2-③	昭和61年頃の中町三番町の関の山車 [写真]	亀山市歴史博物館蔵
2-1	足踏式脱穀機	亀山市歴史博物館蔵
2-2	千歯扱きの歯	亀山市歴史博物館蔵
2-3	コンバインでの稲刈り風景 [写真]	亀山市歴史博物館蔵
2-4	無電柱化前の関宿伝統的建造物群保存地区の中町の町並み [写真]	亀山市歴史博物館蔵
2-5	無電柱化前の関宿伝統的建造物群保存地区の木崎の町並み [写真]	亀山市歴史博物館蔵
2-6	無電柱化前の関宿伝統的建造物群保存地区の新所の町並み [写真]	亀山市歴史博物館蔵
2-7	無電柱化後の関宿伝統的建造物群保存地区の中町の町並み① [写真]	亀山市歴史博物館蔵
2-8	無電柱化後の関宿伝統的建造物群保存地区の中町の町並み② [写真]	亀山市歴史博物館蔵
2-9	無電柱化後の関宿伝統的建造物群保存地区の中町の町並み③ [写真]	亀山市歴史博物館蔵
2-10	無電柱化後の関宿伝統的建造物群保存地区の中町の町並み④ [写真]	亀山市歴史博物館蔵
2-11	中町三番町の山車 [写真]	亀山市歴史博物館蔵
2-12	中町四番町の山車 [写真]	亀山市まちなみ文化財G所管
2-13	北裏の山車 [写真]	亀山市歴史博物館蔵
2-14	木崎の山車 [写真]	亀山市歴史博物館蔵

3. これは、何をしているのでしょうか？

Q3-①	忍山橋の渡り初め [写真]	岡本家蔵(寄託)
Q3-②	干し芋作り [写真]	岡本家蔵(寄託)
Q3-③	花嫁の出立 [写真]	亀山市歴史博物館蔵
3-1	忍山橋の渡り初めの神事のように [写真]	岡本家蔵(寄託)
3-2	忍山橋の渡り初め [写真]	岡本家蔵(寄託)
3-3	両尾橋の渡り初め [写真]	亀山市歴史博物館蔵
3-4	長尾橋の渡り初め [写真]	亀山市歴史博物館蔵
3-5	勸進橋の渡り初め [写真]	亀山市歴史博物館蔵
3-6	忍山大橋の渡り初めの粗品	亀山市歴史博物館蔵
3-7	干し芋作り [写真]	岡本家蔵(寄託)
3-8	花嫁の出立 [写真]	亀山市歴史博物館蔵
3-9	ウェディングハッピーキャンドル	亀山市歴史博物館蔵

4. これは、何でしょう？

Q4-①	丸周繭糸問屋の店先 [写真]	亀山市歴史博物館蔵
Q4-②	田中製絲場 [写真]	亀山市歴史博物館蔵
Q4-③	野村一里塚 [写真]	岡本家蔵(寄託)
Q4-④	亀山郵便局 [写真]	亀山市歴史博物館蔵
Q4-⑤	井田川村役場(井田川支所) [写真]	亀山市歴史博物館蔵
Q4-⑥	ボンネットバス(省営バス) [写真]	亀山市歴史博物館蔵
Q4-⑦	上棟式(建前) [写真]	亀山市歴史博物館蔵
Q4-⑧	白い喪服姿の女性 [写真]	亀山市歴史博物館蔵
4-1	丸周繭糸問屋の店先 [写真]	亀山市歴史博物館蔵
4-2	蚕繭	亀山市歴史博物館蔵
4-3	ガラス乾板	亀山市歴史博物館蔵
4-4	田中製絲場商品ラベル	亀山市歴史博物館蔵
4-5	田中音吉銅像の壮行会 [写真]	亀山市歴史博物館蔵
4-6	東海道絵図	亀山市歴史博物館蔵
4-7	三本松 [写真]	亀山市歴史博物館蔵
4-8	宮村の松 [写真]	亀山市歴史博物館蔵
4-9	御厩の松 [写真]	亀山市歴史博物館蔵
4-10	井田川郵便局 [写真]	亀山市歴史博物館蔵
4-11	関郵便局 [写真]	中林大典家蔵
4-12	秤	中林大典家蔵
4-13	井田川支所図面	亀山市歴史博物館蔵
4-14	亀山町役場 [写真]	亀山市歴史博物館蔵
4-15	昼生村役場(昼生支所) [写真]	亀山市歴史博物館蔵
4-16	野登村役場 [写真]	亀山市歴史博物館蔵
4-17	省営亀三線自動車路線図 [写真]	亀山市歴史博物館蔵
4-18	ボンネットバス(省営バス) [写真]	亀山市歴史博物館蔵
4-19	貨物トレーラーつきバス(省営バス) [写真]	亀山市歴史博物館蔵
4-20	ボンネットバス(三重交通) [写真]	亀山市歴史博物館蔵
4-21	矢飾り(鏑矢・雁又)	亀山市歴史博物館蔵
4-22	矢飾り(鏑矢)	亀山市歴史博物館蔵
4-23	白い喪服姿の女性達 [写真]	亀山市歴史博物館蔵
4-24	野辺送り(出棺) [写真]	亀山市歴史博物館蔵
4-25	野辺送り [写真]	亀山市歴史博物館蔵
4-26	龍頭	亀山市歴史博物館蔵
4-27	人力霊柩車	亀山市歴史博物館蔵
4-28	人力霊柩車	亀山市歴史博物館蔵

参考文献

- 五来重『装と供養』（1992, 東方出版）
『保存版 鈴鹿・亀山の今昔』（2007, 郷土出版社）
『写真アルバム 鈴鹿・亀山の昭和』（2012, 樹林舎）
Web版『亀山市史』民俗編（2011, 亀山市）
「広報かめやま」（2019, 亀山市）

謝辞

この自由研究のひろばの開催にあたり、下記の方々および機関にご協力をいただきました。
ここに改めて御礼申し上げます。

（敬省略）

中林大典

亀山市市民文化部文化課まちなみ文化財グループ

亀博自由研究のひろば

古写真の謎を解け！

～古写真から地域の歴史を調べよう～

配 信 日 令和5年11月27日

編集・発行 亀山市歴史博物館
三重県亀山市若山町7-30

